THE NEW VALUE FRONTIER

KYOCERA

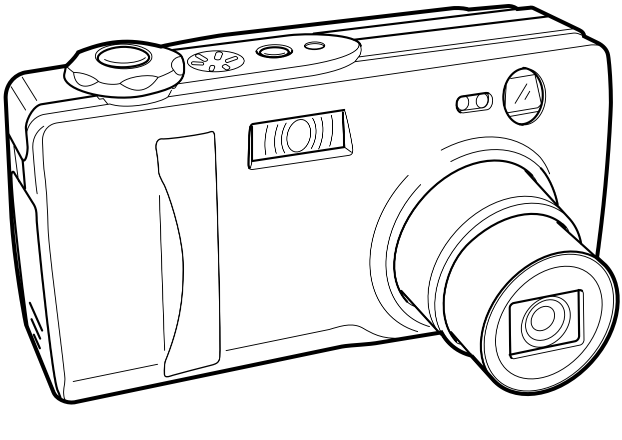
取扱説明書

Finecam L4

4.0 MEGA PIXELS 3.0X OPTICAL ZOOM

Finecam L3

3.2 MEGA PIXELS 3.0X OPTICAL ZOOM



SDメモリーカードまたはマルチメディアカード*をお使いください。
本書では、これらのカードのことを「メモリーカード」と称しております。

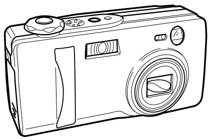
＊MultiMediaCard™は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標であり、MMCA（MultiMediaCard Association）へライセンスされています。

はじめに

お買い上げありがとうございました。
このFinecam L3及びFinecam L4は光学3倍ズームレンズを搭載した高性能、高画質のデジタルカメラです。
お取り扱いの際はこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい使いかたで、末永くご愛用ください。

付属品の確認

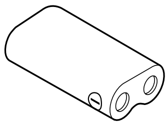
まず、はじめに付属品の確認をしてください。



デジタルカメラ
Finecam L3
Finecam L4

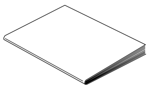


メモリーカード
(SDメモリーカード)
15ページ

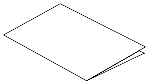


リチウム電池(CR-V3)
15ページ

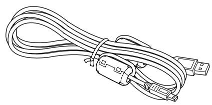
取扱説明書
(本書)



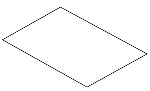
クイックスタート
ガイド



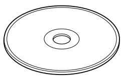
USBケーブル(パソコンとカメラをつなぎます)
34ページ



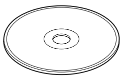
保証書



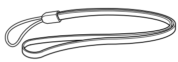
CD-ROM(CD-41)
(ドライバソフト)



CD-ROM
(Kodak
EasyShare)



ハンドストラップ
14ページ



この取扱説明書の使いかた

はじめにでは ､このカメラや取扱説明書のこと､カメラを扱う上でのご注意などの大切なことが書かれています。

カメラの準備では､カメラをお使いになる前にしていただきたいことが書かれています。

基本の操作では､デジタルカメラの基本である｢撮る､見る､消す｣の操作が書かれていますので､特に初めてお使いになる方は､こちらをお読みいただいて､デジタルカメラの使いかたを覚えてください。

撮影のテクニックでは､ピント合わせがうまくできないときやファインダーを使った撮影のしかたなど､このカメラをさらに使いこなすためのテクニックが書かれています。

“ ”カメラモードと“ ”動画モードの機能を使いこなすでは､ストロボ機能や露出補正など撮影前に設定する機能の使いかたが書かれています。基本の操作や撮影のテクニックをご理解いただいた方やカメラの操作に慣れている方はこちらをお読みください。

“ ”再生モードの機能と使いかたでは､画像を見るための機能と､画像をリサイズしたり､90°の回転をさせたりなど､カメラの操作で簡単な画像の加工ができる機能の使いかたが書かれています。

“SET UP”セットアップモードの機能と使いかたでは､メモリーカードのフォーマットや日付の設定など､使用頻度は少ないが､あると便利な機能や大事な機能の使いかたが書かれています。

付録では､カメラの様子がおかしいときの対処表､このカメラの仕様､索引などが書かれています。

●本書ではデジタルカメラのことをカメラと称しております。

※**ご使用の前に**　このカメラは高性能ICを使用した電子機器です。ご使用中にICの放熱によりカメラが熱くなることがあります。故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。

目次

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠ 危険	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う危険性が切迫して想定されることを示します。
⚠ 警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠ 注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

⚠ 警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

⚠ 注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してから使用してください。**

● このカメラは防水機構になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
● 撮影レンズ、測光窓などを指紋などで汚すとカメラの精度に影響を及ぼしますので十分注意してください。もし汚れた場合はむやみに拭かず、セーム皮や市販の眼鏡拭き用紙などで軽く拭く程度にしてください。また、ゴミやホコリはブロアーで吹き飛ばすかレンズ刷毛で払うようにしてください。
● 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

- 撮影や再生直後など、カードアクセスLEDが点滅しているときは、SDメモリーカードまたはマルチメディアカードを取り出さないでください。
- 強力な電磁波を発生させる場所（テレビやスピーカーのすぐ近くなど）では、画像が乱れて記録されたり、再生画像が乱れることがあります。
- 太陽に直接カメラを向けて撮影しないでください。カメラのCCDを損傷します。
- カメラを落下させたときは、外観に異常がなくても、内部が破損していたり、はずれている場合があります。必ず当社サービスステーションにお持ちいただき、点検を受けてください。
- カード着脱部の内部には触れないでください。故障の原因となります。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合はカメラの電源をOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、アクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。市販されている他社製品、あるいは自作の製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

著作権について

あなたが、実演や興行・展示物などを撮影したものは、個人で楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行・展示物などのうちには、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ためし撮りと撮影内容の補償について

必ず事前に試し撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一本機や記録媒体（SDメモリーカードまたはマルチメディアカード）の不具合により、撮影画像の記録やパソコンへの読み込みが行われなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 航空機の機内や病院など、使用を禁止された場所ではカメラの電源をOFFにしてください。電子機器などに影響を与え事故の原因となります。

〈カメラの保管について〉

⚠ 注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

- 熱い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくとカメラやSDメモリーカードまたはマルチメディアカード、電池等の性能を低下させ、故障の原因となりますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

〈液晶モニターについて〉

⚠ 注意	● 液晶モニターの画面を強くこすったり、強く押したりすると故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミなどが付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム皮などで軽く拭き取ってください。また、ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。 ● 万一液晶モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをする恐れがありますので十分ご注意ください。 ● 液晶モニターの破損により中の液晶が皮膚に付着した場合、すみやかに付着物を拭き取り、水で流し、石鹸でよく洗浄してください。また目に入った場合、きれいな水で最低 15分間洗浄した後、すみやかに医師の診断を受けてください。

- **液晶モニターの特性上、一部の画素で常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。また記録される画像には何ら影響ありません。**
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくくなる場合があります。

〈電池・使用上のご注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

⚠ 注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠ 警告	● 電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ● 次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池の極性（＋と－）を逆に入れないでください。 ③ 電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ④ アルカリ乾電池、リチウム電池 、ニッケル乾電池は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

＊リチウム電池＝二酸化マンガンリチウム電池 CR-V3

＊SDロゴは商標です。
＊MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
＊MacintoshおよびMac OS、QuickTime™およびQuickTimeロゴは、Apple Computer, Inc.の登録商標です。
＊PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching II に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
＊KodakおよびEasyShareはEastman Kodak Companyの商標です。
＊Eastman Kodak Company, Rochester, NY 14650
＊USB DIRECT-PRINTに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。
＊全ての会社名、ブランド名または商品名は、それらの所有者の登録商標または商標です。

PRINT Image Matching

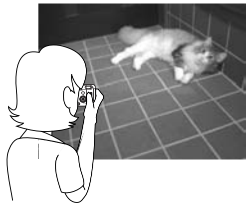
＊本製品はPRINT Image Matching II に対応しています。PRINT Image Matching II 対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

USB DIRECT-PRINT

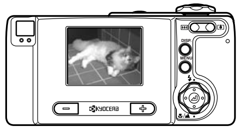
＊本製品は、USB DIRECT-PRINTに対応しております。本製品はUSB DIRECT-PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニタ上で写真選択や印刷開始を指示することができます。

このカメラでできること

撮る



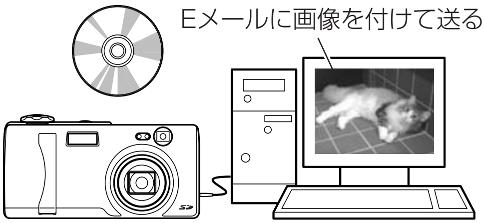
見る



パソコンにつなぐ

ハードディスクやCD-Rに保存する
壁紙にする

Eメールに画像を付けて送る

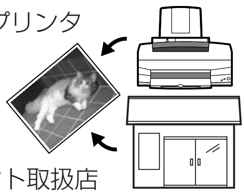


レタッチソフトで加工する

付属のUSBケーブルでカメラとパソコンをつないでください。OSによっては、USBドライバのインストールが必要です。この場合はUSBドライバをインストールしてからカメラとパソコンをつないでください。手順を間違えるとUSBドライバが正しくインストールできません。詳しくは31ページをご覧ください。

デジタルプリントする

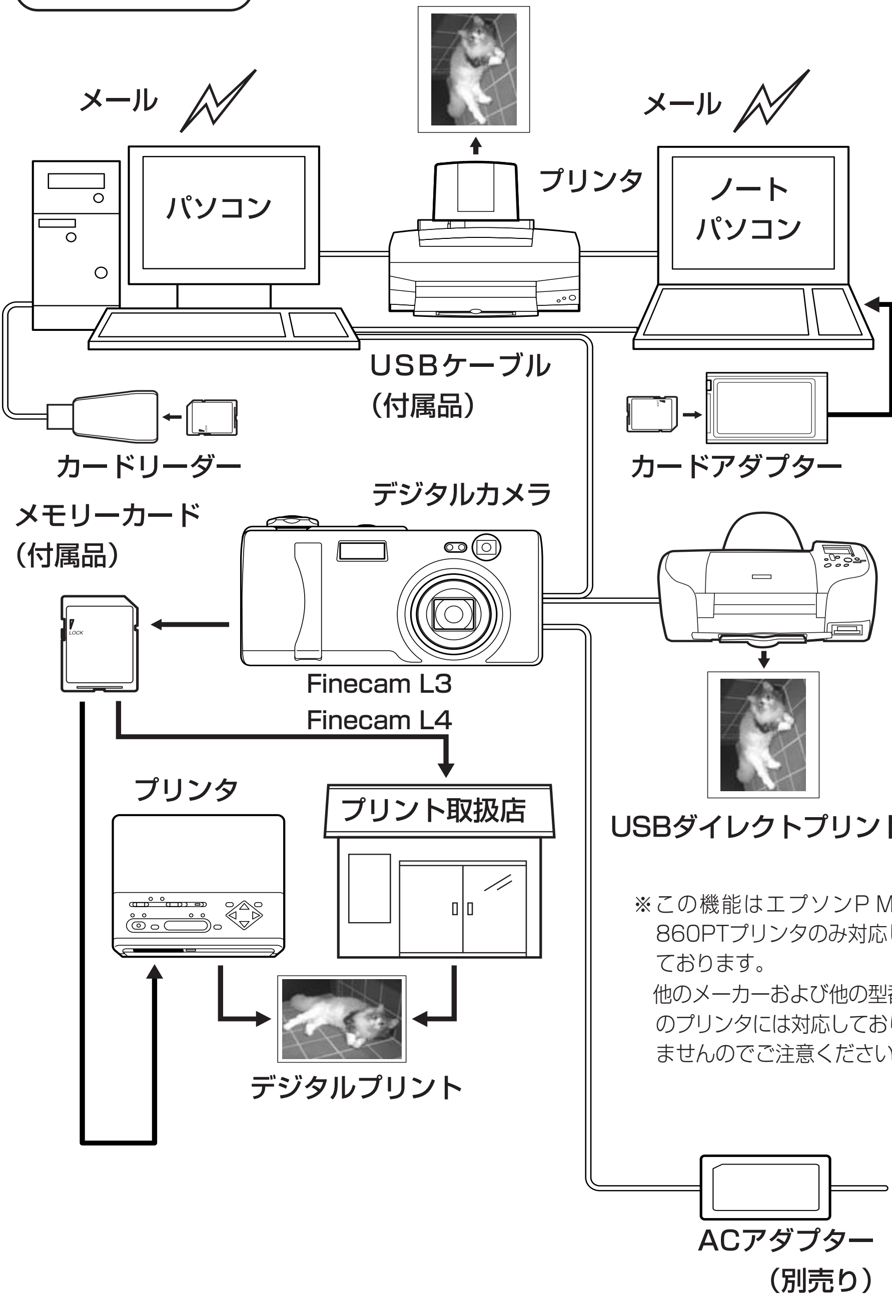
プリンタ



プリント取扱店

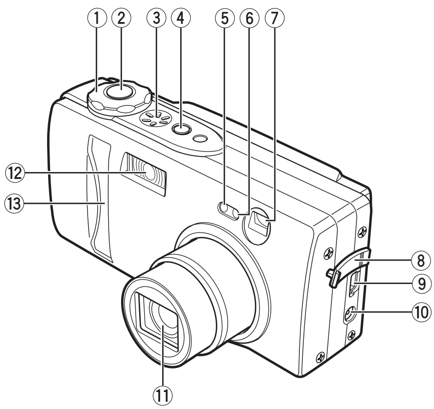
※従来の写真と同様にデジタルプリントはプリント取扱店で出来ます。サービス内容について、詳しくは、お店にお問合せください。

システムマップ

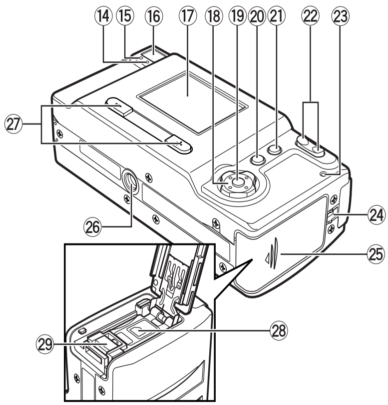


※この機能はエプソンＰＭ-860PTプリンタのみ対応しております。
他のメーカーおよび他の型番のプリンタには対応しておりませんのでご注意ください。

各部の名称 →ボタンやレバーなどの呼び名をご紹介



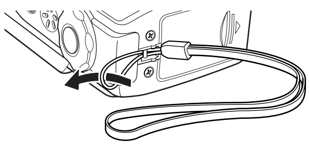
① モード切替ダイヤル →17ページ
② シャッターボタン →21ページ
③ スピーカー
④ “POWER”パワーボタン →17ページ
⑤ セルフタイマーLED(赤) →108ページ
⑥ 測光窓
⑦ ファインダー
⑧ 端子カバー
⑨ USB端子 →35ページ
⑩ 電源入力端子
⑪ レンズ／レンズバリア
⑫ ストロボ発光部 →52ページ
⑬ フロントイルミネーション→108ページ



⑭ 警告LED(赤) →109ページ
⑮ スタンバイLED(緑) →109ページ
⑯ ファインダー →50ページ
⑰ 液晶モニター →105ページ
⑱ 十字ボタン:上下左右の十字方向に押せます。→30ページ
⑲ 決定ボタン →30ページ
⑳ “MENU” メニューボタン →28ページ
㉑ “DISP.” ディスプレイボタン →51ページ
㉒ ズームボタン (ワイドボタン、 テレボタン) →50ページ
㉓ カードアクセスLED(橙) →109ページ
㉔ ストラップ取り付け部
㉕ カードカバー →15ページ
㉖ 三脚取り付け穴
㉗ ーボタン／＋ボタン→23ページ
㉘ バッテリーカバー →15ページ
㉙ バッテリーカバー開放レバー →15ページ

ハンドストラップの取り付けかた

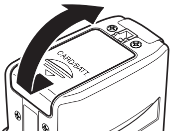
図のように取り付けて下さい。



カメラの準備

1. メモリーカードと電池を入れる

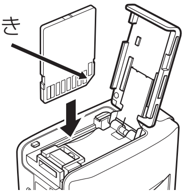
1



カードカバーを開けます。

カードカバーをスライドさせるとカードカバーが開きます。

2



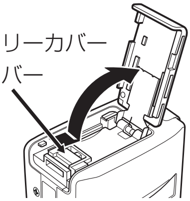
メモリーカードを入れます。

メモリーカードはラベル面を液晶モニター側に向けて差し込みます。

差し込むときは、「カチッ」と音がして止まるところまで差し込んでください。

● **メモリーカードにシールなどを貼らないでください。取り出せなくなることがあります。**

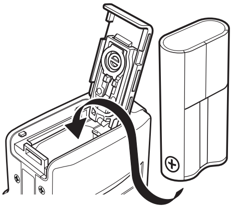
3



バッテリーカバーを開けます。

バッテリーカバー開放レバーに指先を引っかけてスライドさせるとバッテリーカバーが開きます。

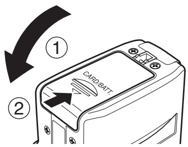
4



付属品のリチウム電池（CR-V3）を入れます。

電池の向きにご注意ください。

5

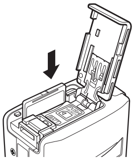


カードカバーとバッテリーカバーを閉めます。

① カードカバーを閉めます。（バッテリーカバーも同時に閉まります。）

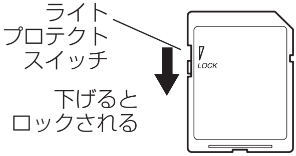
② カードカバーをスライドしてロックします。

メモリーカードを取り出すときは

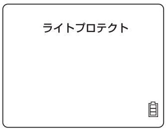


メモリーカードを軽く一回押すと少し飛び出しますので、それを指でつまんで取り出してください。

ライトプロテクト（書込禁止）スイッチ ※SDメモリーカードのみ



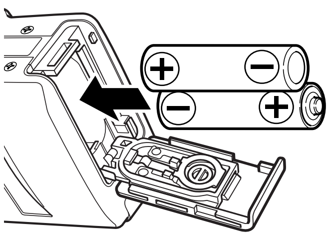
SDメモリーカードにはライトプロテクトスイッチがついています。
このスイッチを下にスライドするとカードへのデータ書込が禁止され、カードに保存されている画像などのデータが保護されます。



なお、この状態のカードを使って撮影や消去などはできません。
液晶モニターには“ライトプロテクト”と表示されます。

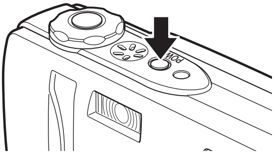
単3形電池もお使いになれます

付属品のリチウム電池CR-V3 のほかにも単3 形ニッケル水素蓄電池、ニッケル乾電池を 2 本、お使いいただけます。



- 付属品のCR-V3使用時より、撮影できる枚数や再生できる時間は短くなります。
- マンガン電池は電流容量が不足しているため使用できません。使用された場合は電池の状態の確認がうまくいかず、突然カメラが動作不能になることがあります。

2. 電源をONにする



POWER **パワーボタンを押します。**

●起動画面にご自分で撮影した画像を設定することができます。→98ページ

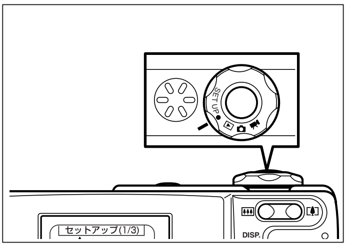
バッテリー残量表示の見かたと電池交換の目安

- 電池の容量は十分です。
- 半分使った状態です。
- 残り少ない状態です。早めに電池を交換してください。
- カメラは作動しません。電池を交換してください。

3. 日付と時刻を合わせる

電池を抜いて、長時間放置すると日付や時刻がリセットされます。新しい電池に交換したときは、日付や時刻が合っているか確認してください。

1

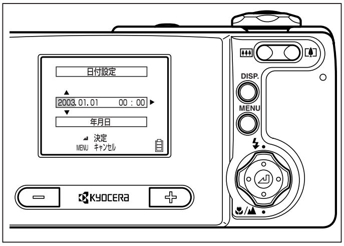


モード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

セットアップのメニューが表示されます。

準備

2 日付や時間を設定します



① 十字ボタンの上下を押して［日付設定］を選び、十字ボタンの右を押します。

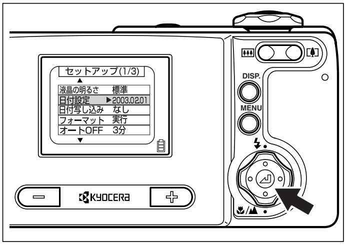
② 十字ボタンを使って日付や時間を設定します。

十字ボタンの左右を押すと「年⇔月⇔日⇔時⇔分⇔日付の表示形式」のように項目の移動ができます。

十字ボタンの上下を押すと数値の変更と表示形式の選択ができます。

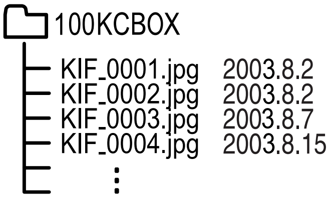
日付の表示形式→ 19 ページ

3



全ての設定が終わったら、決定ボタンを押して、設定完了です。

日付と時刻は必ず設定してください



デジタルカメラでは、撮影したときの日付と時刻が画像データと一緒にメモリーカードに保存されます。これにより画像は、パソコンで扱うときに撮影した日付と時刻が情報として残るので、アルバムなどのデータ管理がしやすくなります。

日付の表示形式とは

並び順	表示例
年月日	2003.07.21
月日年	07.21.2003
日月年	21.07.2003

年、月、日の並び順です。この場合は次の３通りがあります。
お好みの表示形式をお選びください。

●日付の写し込みは、ここで設定した表示形式で写し込まれます。→89ページ

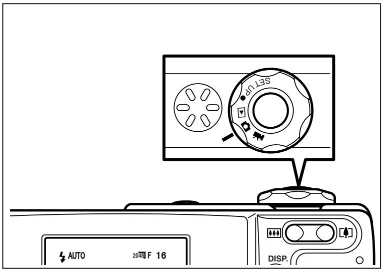
基本の操作

（初めてデジタルカメラをお使いになる方へ）

撮る→見る→いらない画像は消す
これがデジタルカメラの基本操作です。
まずは試し撮りなどをして、このカメラの使いかたを覚えてください。
そして撮った画像は、パソコンで加工したり、デジタルフォトプリントしたりと、デジタルカメラならではの楽しみ方もお試しください。

撮影してみましょう（静止画像の撮影）

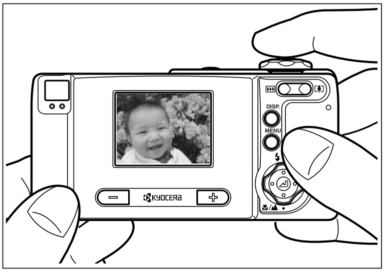
1 モードを“ ”カメラモードにします



モード切替ダイヤルを“ ”に合わせ、“POWER”パワーボタンを押して、カメラの電源をONにします。

日付は起動後に約3秒表示されます。
日付が正しいか確認してください。

2 構図を決めます



液晶モニターを見ながら被写体の構図を決めます。

●カメラぶれに注意してください。

カメラぶれ→56ページ

構えかた →22ページ

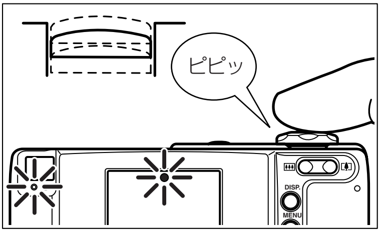
ファインダーを使った撮影で節電
→50ページ

“[ ]”テレボタンと“ ”ワイドボタンを押すと構図の拡大または縮小ができます。

ズームボタンを使った撮影
→50ページ

露出とピントを合わせます

3



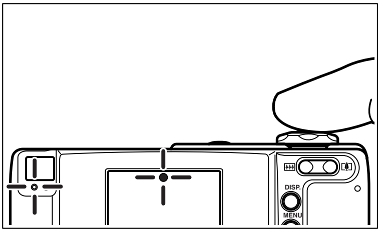
シャッターボタンを半押しして露出とピントを合わせます。

シャッターボタンの半押し→22ページ

露出とピントが合ったとき

「ピピッ」と音がして、スタンバイLEDと合焦マークが点灯します。

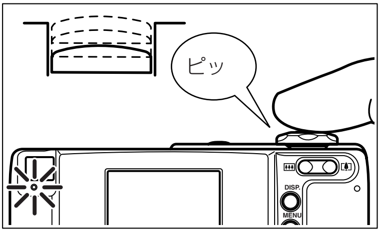
露出とピントが合っていないとき



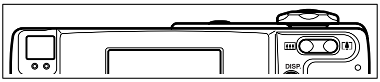
スタンバイLEDと合焦マークが点滅して、音は鳴りません。

- シャッターボタンを半押しし直したり、フォーカスロックを使って再び露出とピントを合わせてください。
- ピントが合っていないときでもシャッターが切れ、撮影されます。

4 撮影します



シャッターボタンをさらに押し込むと、撮影できます。



スタンバイLEDが消灯しましたら撮影完了です。

構えかた

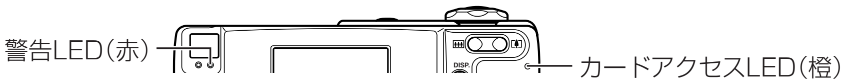


カメラは両手で持つようにしましょう。

レンズ、ストロボ、測光窓、ファインダーに指がかからないように注意してください。

撮影後のLEDの表示

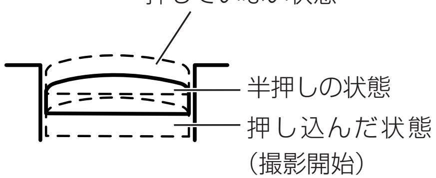
撮影後に警告LED（赤）とカードアクセスLED（橙）が点滅している場合は、次のことをお知らせしています。（LEDの表示→105ページ）



撮影後、カードアクセスLEDが点滅しているときは、メモリーカードに画像を記録しています。このときに、カードカバーを開けたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データがこわれる可能性があります。（点滅中でも撮影はできます）

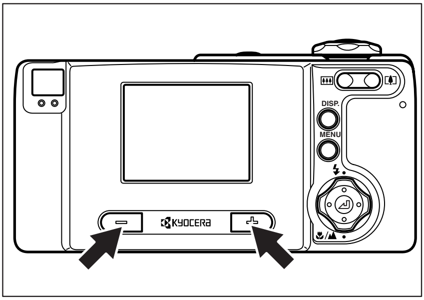
撮影後、警告LEDが点滅しているときは、ストロボ充電中です。消灯するまで次の撮影はお待ちください。

シャッターボタンの半押し



シャッターボタンを押すと、ボタンを押しきる迄の途中で止まるところがあります。この状態を半押しといい、カメラは露出とピントを決めて撮影のための準備をします。この状態からさらに押し込むと撮影が行われます。

＋ボタンと－ボタンの使いかた



次のような使いかたができます。

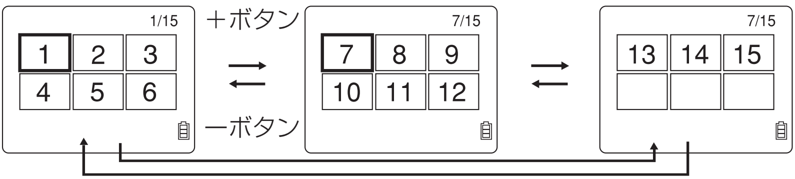
●カメラモードと動画モードのときに、これらのボタンを押すと、液晶モニターの明るさが変えられます(9段階)。撮影直前に液晶モニターの明るさ調節が簡単にできます。

暗く　　　　明るく
－4　←　標準　→　＋4

このボタンには[液晶モニターの明るさ]の他に、[露出補正]や[ホワイトバランス]が扱える設定に変えることもできます。詳しくは、“SETUP”セットアップモードの[カスタム設定]をご覧ください。(93ページ)

●“▶”再生モードの[マルチ表示]のときと“SETUP”セットアップモードのときに押すと、ページを切り替えることができます。

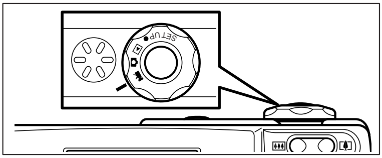
＜再生モードの[マルチ表示]の場合＞



※ 十字ボタンの左右を押したときは、1画像ずつ移動します。

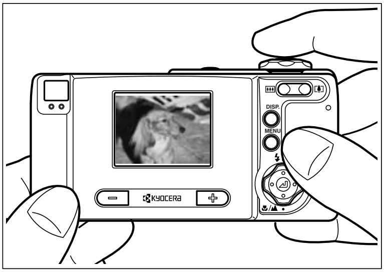
動画も撮ってみましょう

1 モードを“ ”動画モードにします



モード切替ダイヤルを“ ”に合わせて、電源をONにします。

2 構図を決めて、ピントを合わせます

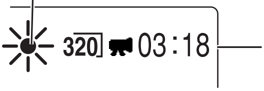


① 液晶モニターを見ながら構図を決めます。

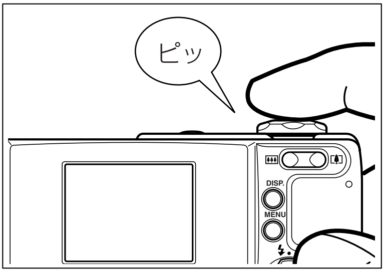
② シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

● 撮影中の露出は周囲の明るさに合わせてカメラが調節します。

● 合焦マーク(緑):ピントが合ったときに点灯します。(点滅中はピントが合っていませんが、撮影はできます。)

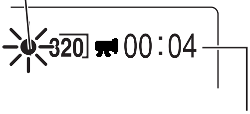


3 撮影します



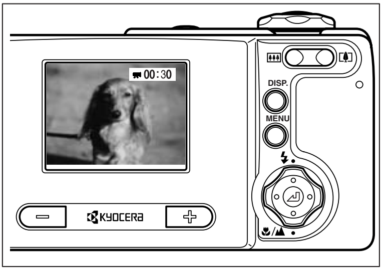
シャッターボタンをさらに押し込むと、動画撮影が始まります。

● 合焦マーク(赤):動画撮影中は点灯します。



撮影秒数をカウント表示
320x240: 30秒
160x120: 120秒(2分)

4



30秒後または120秒後、動画撮影が終わります。

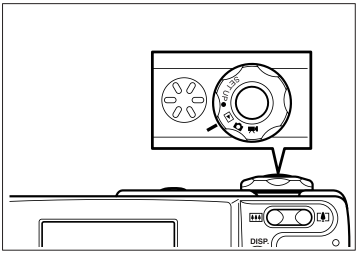
●ズームボタンは撮影前にお使いになれますが、撮影中は使用できません。

●途中で撮影を止めるときは、シャッターボタンを押してください。

●画素数が160x120のときは最大で120秒の動画が撮れます。

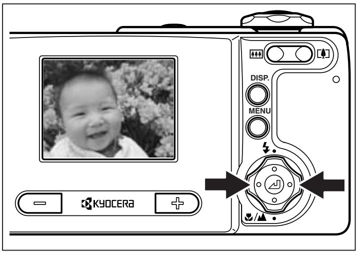
撮った画像を確認する（画像の再生）

モードを“▶”再生モードにします



モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源をONにします。

最後に撮った画像が液晶モニターに現れます。



十字ボタンの左右を押すと、記録されている画像が確認できます。

右を押す：順方向

左を押す：逆方向

● ＋－ボタンでも同様に操作できます。
＋ボタンを押す：順方向
－ボタンを押す：逆方向

静止画のときの操作



ズームボタンを押すと画像の拡大縮小ができます。

テレボタンを押す：拡大

ワイドボタンを押す：縮小（元のサイズに戻る）

●拡大後、十字ボタンで表示範囲が選べます。

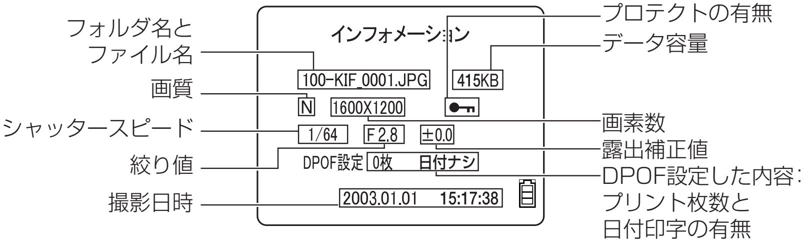
●次の画像に送るときは、元のサイズに戻してください。

画像の撮影時の情報を見る

撮影したときの絞り値、画質、シャッタースピードなどの情報(インフォメーション)の確認ができます。

DISP. ディスプレイボタンを押します。

インフォメーションが表示されます。

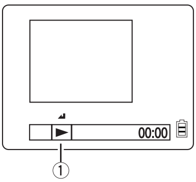


● 十字ボタンの右または左を押すと 、画像の順送りや逆送りができます。

●インフォメーションを消すときは、再び DISP. ディスプレイボタンを押します。

動画のときの操作

動画の画面

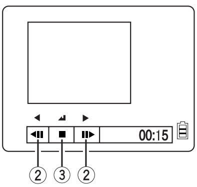


① 決定ボタンを押すと動画の再生が始まります。

② 十字ボタンの右または左を押すと一時停止し、以後、ボタンを押す毎にコマ送り再生されます。

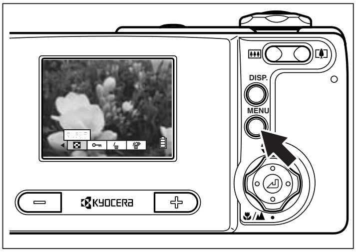
③ 決定ボタンを押すと動画を停止します。

動画再生中の画面



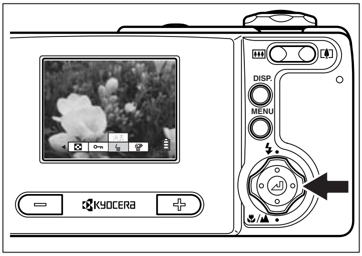
不要な画像を消す（画像の消去）

1　モードを“▶”再生モード→消去[🗑]にします。



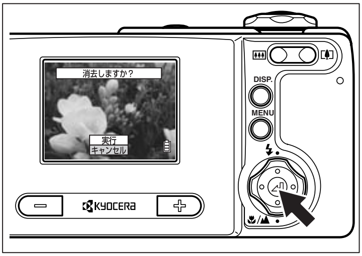
① モード切替ダイヤルを“▶”に合わせて、電源をONにします。

② メニューボタンを押します。
再生のメニューアイコンが表示されます。



③ 十字ボタンの右を押して[消去]を選びます。

④ 決定ボタンを押します。



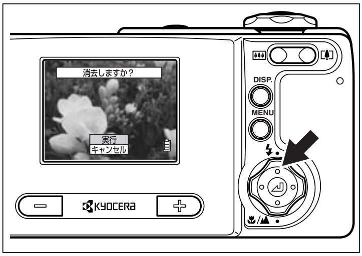
基本

2 消去する画像を選びます

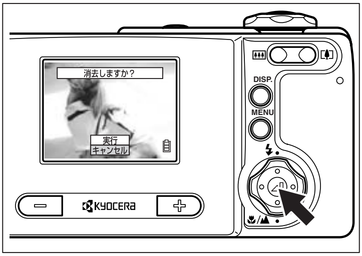
十字ボタンの右または左を押して、消去する画像を表示させせます。

● ここでは例として、すでに表示されている画像を消去します。

3 消去します



① 十字ボタンの上を押して[実行]を選びます。



② 決定ボタンを押すと、画像が消去されます。

液晶モニターには消えた画像の次に保存されていた画像が現れます。続けて消去する場合は、「2. 消去する画像を選びます」からの手順を繰り返してください。

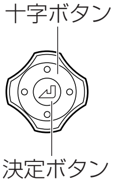
● プロテクトされている画像は消去できません。→77ページ

4. 作業を終了します

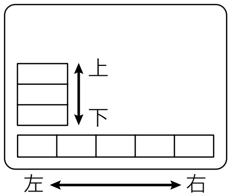
MENU ◯メニューボタンを押すと、消去の作業は終了です。

十字ボタンと決定ボタンの使いかた

メニューアイコンやメニューの項目を選ぶときには、こちらのボタンを使います。

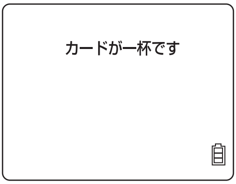


この説明書では、中央の部分を決定ボタン、その回りを十字ボタンと呼んでいます。

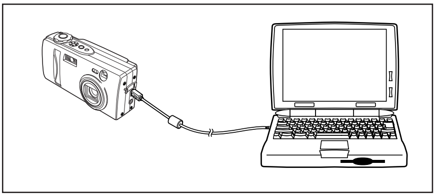


メニューを選ぶときは、十字ボタンの上下左右を押して項目を選び、決定ボタンを押して確定します。

画像がいっぱいになったら…



メモリーカードの空き容量が少なくなって画像が記録できなくなると、「カードが一杯です」のメッセージが液晶モニターに現れます。
このときは新しいメモリーカードに差し替えるか、パソコンに画像を保存してからメモリーカードにある画像を消してください。

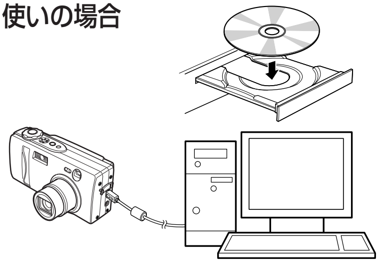


パソコンに画像を保存する場合は、付属のUSBケーブルを使います。詳しくは31ページをご覧ください。また、メモリーカードにある画像を全て消す場合は「全消去」と「フォーマット」の2通りがあります。「全消去」は79ページ、「フォーマット」は90ページをご覧ください。

パソコンにつなぐ

カメラとパソコンをつないで、撮った画像をパソコンで見たり、コピーして加工したり、Eメールで送ることができます。
まずはお使いのパソコンの環境やOSをご確認ください。

Windows 98/98SE、Mac OS 8.6がプレインストールされているパソコンをお使いの場合



USBドライバをインストールします。

↓

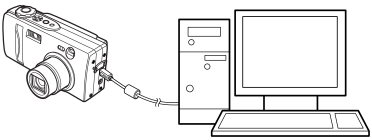
カメラとパソコンをつなぎます。

⚠ ご注意

この手順は必ず守ってください。先にUSBケーブルをつなぐと正しくUSBドライバがインストールされません。もし先につないでしまった場合は、42ページの「ドライバの削除と対処法」にて、そのときの状況に合う対処法を行ってください。

Windows Me/2000/XP*1、Mac OS 9.0～9.2/10.0～10.2*2がプレインストールされているパソコンをお使いの場合

*1 Windows2000はProfessional、Windows XPはHomeEditionおよびProfessionalに限ります。
*2 Mac OSはXサーバーを除きます。



カメラとパソコンをつなぎます。

- USBドライバのインストールは必要ありません。

※ 上記以外のOSまたは、上記のOSでもアップグレードされた場合は動作保証いたしません。

また、どのパソコンにもこちらの装備が必要です。

- USB端子が標準で装備されていること。（カメラとつなぐときに必要です。）
- CD-ROMドライブが装備されていること。（インストール時に必要です。）

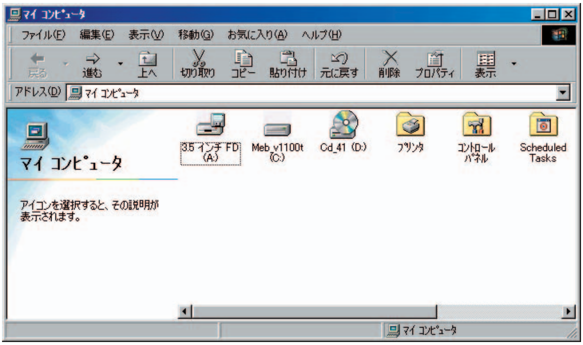
USBドライバをインストールする

USBドライバはカメラに付属しているCD-ROM (CD-41) に収録されています。

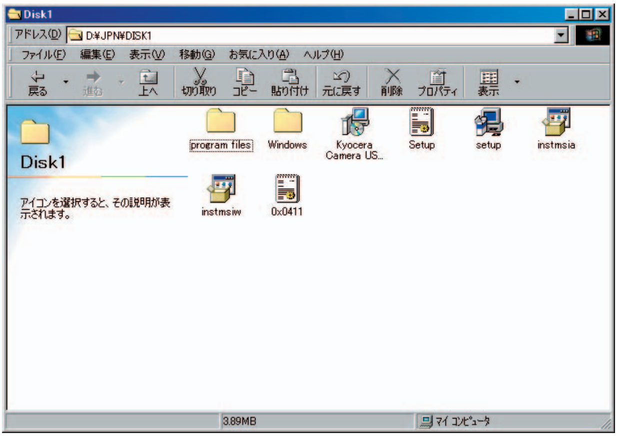
1 パソコンの電源を入れてパソコンを起動します。
2 付属のCD-ROM (CD-41)をパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

Windows 98/98SEをお使いの場合

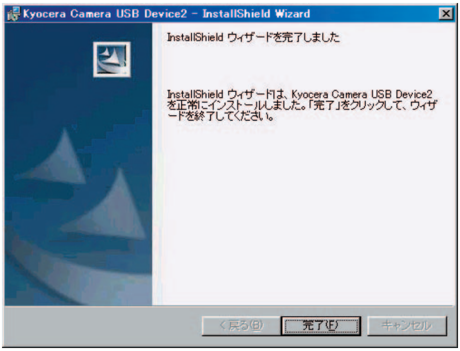
1 [マイコンピュータ]から[Cd_41(D:)]のフォルダをダブルクリックして開いてください。
●(D:)はパソコンによって違うアルファベットになる場合があります。



2 [JPN]、[Disk1]のフォルダを順次ダブルクリックして開き、[Setup(.exe)]のファイルをダブルクリックすると、インストールが始まります。ガイドに従ってインストールを行ってください。



3 「InstallShieldウイザードを完了しました」のメッセージが表示されたら、「完了」をクリックし、ウイザードを終了してください。その後パソコンを再起動してインストール完了です。



⚠ ご注意

インストールに失敗した場合は、43ページの「ドライバの削除」の手順に従ってアンインストールし、再度インストールを行ってください。

Mac OS 8.6をお使いの場合

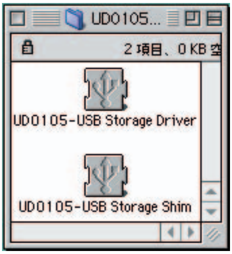
1 画面に表示されるCDドライブのアイコン[CD_41]をダブルクリックしてウインドウを開いてください。





2 [UD0105(J)]のフォルダをダブルクリックしてウインドウを開き、下記のファイルを「Macintosh HD」内の「システムフォルダ」の「機能拡張」にコピーしてください。

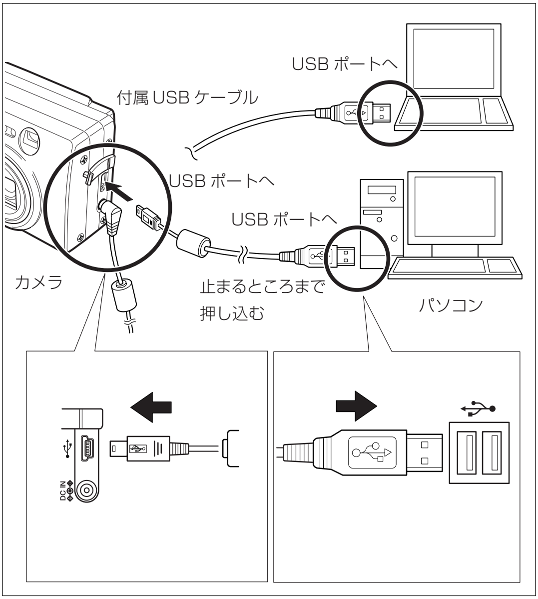
●UD0105-USB Storage Driver
●UD0105-USB Storage Shim





3 コピー完了後、パソコンを再起動してインストール完了です。

USBケーブルをパソコンに接続する

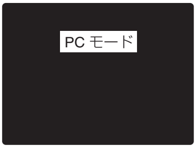


1. 付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。

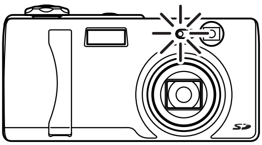
● USB端子の大きさをご確認ください。カメラ側のUSB端子は小さい方、パソコン側は大きい方です。

2. カメラの電源をONにして、次の内容を確認できましたら接続完了です。

接続後のカメラの状態

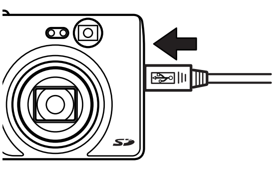


液晶モニターに[PCモード]が表示されます。



セルフタイマーLEDが点灯します。

⚠ ご注意



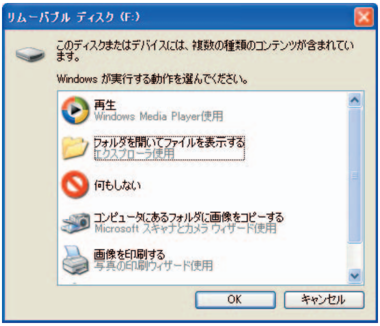
カメラの液晶モニターに[PCモード]が表示されていても、パソコンに[リムーバブルディスク]や[名称未設定]のアイコンが表示されない場合は、USBケーブルが確実に接続されているか、ご確認ください。

接続後のパソコンの状態

Windowsの場合：　[マイコンピュータ]のアイコンを開くと、新しく[リムーバブルディスク]のアイコンが表示されます。



● 表示される(　)内のアルファベットはお使いのパソコンの環境により異なります。
● Windows XPの場合は、こちらのウィンドウが表示されます。



Macintoshの場合：デスクトップに[名称未設定]のアイコンが表示されます。

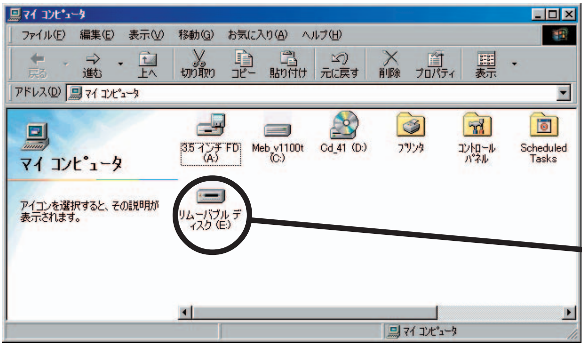


パソコンで画像を見る

● パソコンに画像を見るためのソフトウェアがインストールされていること。(動画の再生にはQuickTime4.1以上のインストールが必要です。)

Windowsをお使いの場合

1 [マイコンピュータ]のアイコンを開くと、新しく[リムーバブルディスク]のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。

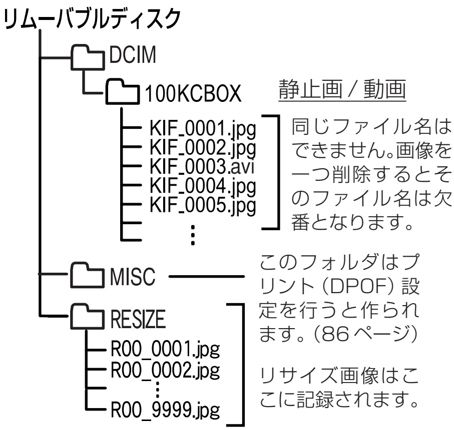


こちらをダブルクリックします。

● 表示される( )内のアルファベットはお使いのパソコンの環境により異なります。
● Windows XPの場合は、こちらのウィンドウが表示されます。



こちらの項目を選ぶと、画像ファイルの入ったフォルダが開きます。

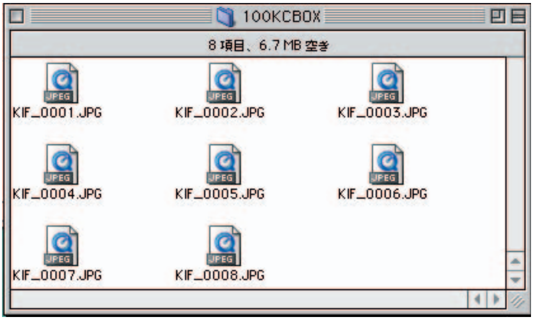


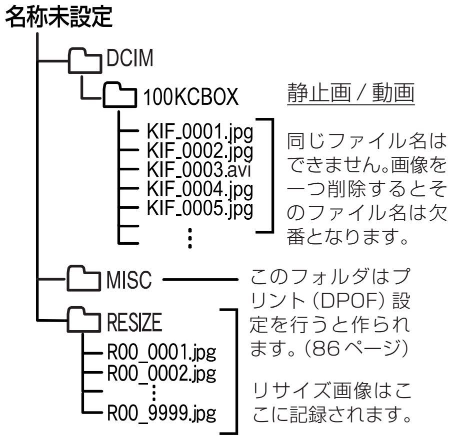
2 フォルダ[DCIM]内の[100KCBOX]もしくは、[RESIZE]を開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

● フォルダ[100KCBOX]の100には、100～999の数字が入ります。→連番リセット100ページ

Macintoshをお使いの場合

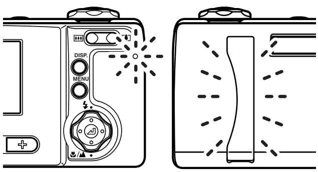
1 デスクトップに[名称未設定]のアイコンが表示されます。ダブルクリックしてウインドウを開いてください。





2 フォルダ[DCIM]内の[100KCBOX]もしくは、[RESIZE]を開き、見たい画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックしてください。

● フォルダ[100KCBOX]の100には、100～999の数字が入ります。→連番リセット100ページ



メモリーカード内のデータにアクセスしているとき（コピーなど）は、カードアクセスLEDと、フロントイルミネーションが点滅します。

● このときUSBケーブルを抜いたり、パソコンやカメラの電源を切らないでください。画像のデータが破損する恐れがあります。

⚠ ご注意

- パソコンで画像を開き、"回転"などの操作を行うと、その画像はカメラで再生できなくなります。
  画像に回転などの加工をするときは、必ずパソコンにコピーしてから加工してください。
- 接続中は、カメラの電池も消費します。接続時の操作は、コピーだけにするなど、接続時間は短くなるように心がけましょう。

※ 長時間お使いになる場合は、別売りのACアダプター AC-74L（111ページ）をおすすめいたします。

USBケーブルの取り外しについて

USBケーブルの取り外しや、カメラの電源を切るときは、以下の手順で操作してください。

Windows Meをお使いの場合

1 デスクトップの右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの取り外し]アイコンをダブルクリックします。
2 [USBディスク]を選択して[停止]をクリックします。
3 [Kyocera E:]* を選択して[OK]をクリックします。
  ● [Kyocera E:]が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので、[キャンセル]をクリックして2に戻り、別の[USBディスク]を選択してください。
  * [Kyocera E:]はパソコンにより違うアルファベットになる場合があります。
4 メッセージが表示されるので[OK]をクリックします
5 USBケーブルを取り外し、カメラの電源をOFFにしてください。

Windows 2000をお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの取り外し]アイコンをダブルクリックします。
2 [USB大容量記憶装置デバイス]を選択して[停止]をクリックします。
3 [Kyocera Finecam L4 USB device]*を選択して[OK]をクリックします。
  ● [Kyocera Finecam L4 USB device]が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので[キャンセル]をクリックして2に戻り、別の[USB大容量記憶装置デバイス]を選択してください。
  * または、[Kyocera Finecam L3 USB device]
4 ['USB大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます]とメッセージが表示されるので[OK]をクリックします。
5 USBケーブルを取り外し、カメラの電源をOFFにしてください。

Windows 98/98SEをお使いの場合

カメラの電源を切りそのままUSBケーブルを取り外してください。

Windows XPをお使いの場合

1 デスクトップ右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの安全な取り外し]アイコンをダブルクリックします。
2 [USB大容量記憶装置デバイス]を選択して[停止]をクリックします。
3 [Kyocera Finecam L4 USB device]*を選択して[OK]をクリックします。
   - [Kyocera Finecam L4 USB device]が表示されない場合は、異なる装置を選択していますので[キャンセル]をクリックして2に戻り、別の[USB大容量記憶装置デバイス]を選択してください。

   * または、[Kyocera Finecam L3 USB device]
4 デスクトップ右下にある「タスクバー」の[ハードウエアの取り外し]アイコンに['USB大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます。]とポップアップメニューが表示されるので、[ハードウエアの安全な取り外し]ダイアログの[閉じる]をクリックします。
5 USBケーブルを取り外し、カメラの電源をOFFにしてください。

Mac OSをお使いの場合

デスクトップ上の[名称未設定]のフォルダをドラッグしてゴミ箱に入れてください。[安全に取り外すことができます]などのメッセージが表示されているか、「名称未設定」などのアイコンがディスプレイ上から消えていることを確認してからUSBケーブルを取り外し、カメラの電源をOFFにしてください。

パソコンとカメラをつないだときのご注意

- パソコンが サスペンド･レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。
- 画像に加工を加える場合は（たとえばサイズを変更したり回転する場合）、加工前にパソコンにコピーをとり、オリジナルの画像ファイルに加工を加えないようご注意下さい。
  メモリーカードのデータに直接加工を加えると、カメラで画像を見ることができなくなります。
- パソコンからメモリーカードをフォーマットしないでください。カメラで使用できなくなるおそれがあります。
- メモリーカードの画像データを削除またはPC上に直接移動しないでください。メモリーカードの画像データの消去はカメラから行ってください。

ドライバの削除と対処法

Window98/98SEのパソコンでは、ドライバをインストールする前にUSBケーブルをつないでしまうと、ドライバが正しくインストールされません。
その場合は、次のチャートで状況に合う対処法を行ってください。

ドライバをインストールする前にUSBケーブルをつなぎ、カメラの電源をONにしましたか?それともOFFのままですか?

1　カメラの電源をONにした場合
　① 「ドライバの削除」を行ってください。
　② ドライバを再インストールしてください。（32ページ）
　● 32ページの手順でインストールを進めると、途中で「プログラムの保守」のウィンドウが表示されます。
　ここでは「修復(P)」を選んで、インストールを進めてください。

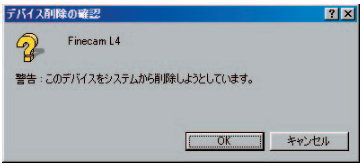
2　カメラの電源がOFFのままの場合
　USBケーブルをはずしてから、ドライバをインストールしてください。（32ページ）

ドライバの削除

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。
2 付属のUSBケーブルで、カメラのUSB端子とパソコンのUSB端子をつなぎます。
3 カメラにメモリーカードを挿入し、カメラの電源をONにします。
4 パソコンの[デバイスマネージャ]を開きます。
　① [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選びます。
　② システムのプロパティが表示されたら、[デバイスマネージャ]のタブをクリックします。



5 [その他のデバイス]を選択し、"?"マークのついた[? Kyocera Finecam L4]か、[? Kyocera Finecam L3]の[削除]をクリックします。
6 デバイス削除の確認画面が出たら、[OK]をクリックします。



7 カメラの電源をOFFにしてからUSBケーブルを取り外し、パソコンを再起動して、作業完了です。

専用プリンタでデジタルプリントする

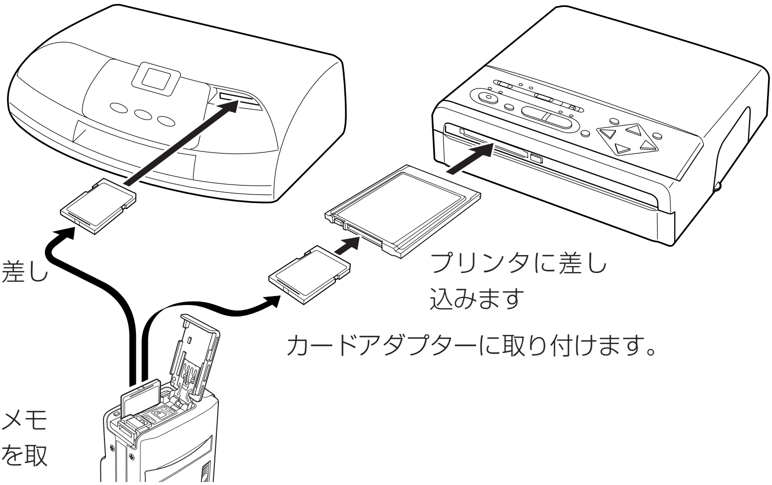
プリンタに撮影済みのメモリーカードを差し込んだり、USBケーブルでカメラとプリンタをつないだりして画像をプリントすることができます。

- この場合、対応しているプリンタが限られていますので、予めプリンタの仕様などをご確認ください。

DPOF対応プリンタの場合

プリント設定（→84ページ）で設定した内容で画像をプリントアウトすることができます。

- DPOF対応のプリンタのみご利用できます。
  操作についての詳細は、お使いのDPOF対応プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- 日付の印字設定をDPOFで設定しても、プリンタの機種によっては印字されない場合があります。



USB DIRECT-PRINT（USBダイレクトプリント）対応のプリンタの場合（エプソン製プリンタのみ）

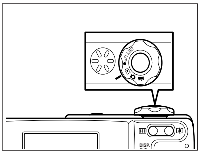
プリンタにデジタルカメラをUSB ケーブルでつないで画像をプリントできる機能です。

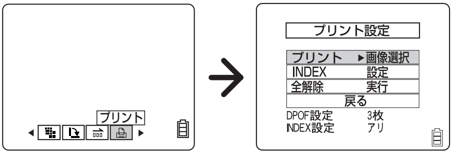
「1画像プリント」 ：画像を液晶モニターで確認しながら1枚ずつプリントできます。
「DPOFプリント」 ：何枚かまとめてプリントすることができます。

● この取扱説明書ではカメラの使いかたに関する説明を記載しております。プリンタの取扱いについてはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
● 本機能は、エプソンPM- 860PT プリンタのみ対応しております。他のメーカーおよび他の型番のプリンタには対応しておりませんのでご注意ください。
（2003 年2月末日現在 ）

設定のしかたと使いかた

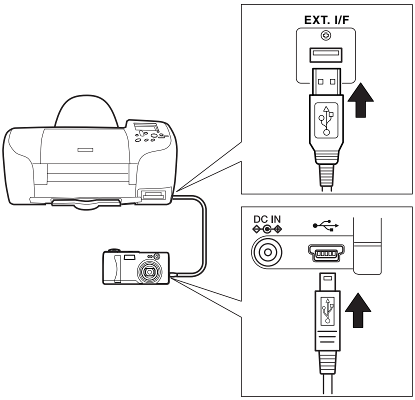
1. 「DPOFプリント」を使う場合は、再生モードでプリント(DPOF)設定をします。→84ページ





2. 付属のUSBケーブルでカメラとプリンタをつなぎます。

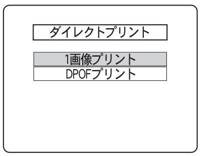
カメラとプリンタの電源はONにしたままでつなぐことができます。



プリンタのポート

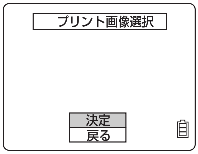
カメラのポート

液晶モニターにダイレクトプリントメニューが表示されます。

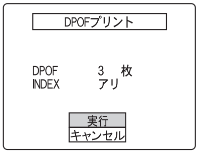


3. ダイレクトプリントのメニューを選びます。

十字ボタンの上下を押してメニューを選び、決定ボタンを押します。

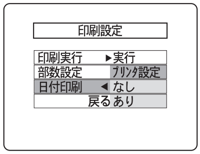


[1画像プリント]では
プリントしたい画像を選びます。
十字ボタンでプリントしたい画像を表示させ、[決定]を選んで決定ボタンを押します。



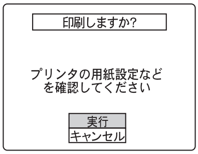
[DPOFプリント]では
1 で設定した内容を確認します。
正しければ十字ボタンで[実行]を選んで決定ボタンを押します。

4. 印刷の設定をします。



十字ボタンの上下を押してメニューを選び、右を押すと、サブメニューが表示されます。
十字ボタンの上下を押してサブメニューを選び、決定ボタンを押します。

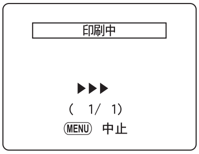
設定が終わりましたら[印刷実行]を選び、決定ボタンを押します。



プリンタでは用紙の種類や画像の面付けなどの設定ができます。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

5. プリントします。

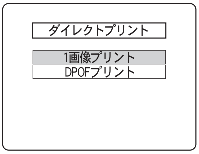
プリンタにセットした用紙や設定内容を確認してください。



十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押します。
印刷を開始します。

6. プリント終了です。

ダイレクトプリントメニューに戻ります。



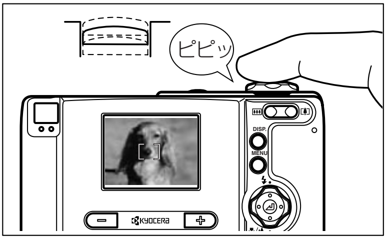
撮影のテクニック

基本の操作で撮影のしかたをマスターしたら、撮影のテクニックでこのカメラをさらに使いこなしましょう

フォーカスロックを使った撮影のしかた

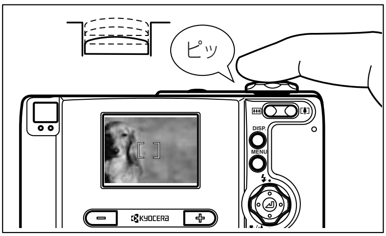
フォーカスロックは、ピントを合わせたい被写体が液晶モニターの中央にないときや、中央からずらした構図を作りたいときに便利な撮影のしかたです。また、ピントが合いにくい被写体を撮影するときにもお使いいただけます。

1. ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。



「ピピッ」という音とスタンバイLEDが点灯したらピント合わせは完了です。ピントと露出が固定されます。（フォーカスロック、AEロック）

2. シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラをずらし、シャッターボタンをさらに押して撮影します。



●フォーカスロックとＡＥロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

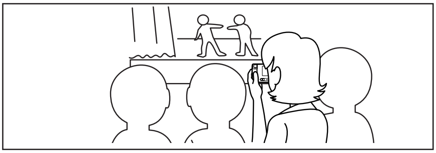
ピントの合いにくい被写体

次のような被写体はピントが合いにくいのでフォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントをあわせて撮影して下さい。

- ●低コントラストの被写体
- ●繰り返し同じパターンのもの
- ●暗い被写体
- ●水平線など横線だけの被写体
- ●非常に明るい被写体や光沢のある被写体
- ●ファインダー内やその周辺に強い光源がある場合、および太陽光など強い光源があり画面内に入る場合
- ●ファインダー内中央付近に距離の違う2つ以上の被写体がある場合
- ●動いている被写体

ズームボタンを使った撮影（光学ズームと電子ズーム）

運動会や学芸会など被写体に近づけないときの撮影や花をクローズアップして構図を決めるときにはズームボタンを使うと便利です。





“”テレボタンを押して拡大し、“”ワイドボタンの縮小も使って調節して構図を決めます。

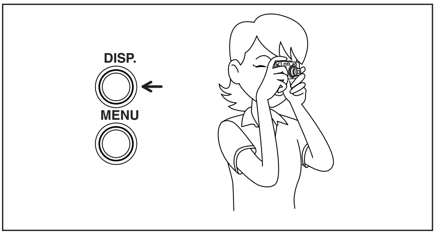
また、このカメラには光学ズームに加えて、電気的に制御して拡大する電子ズームがあります。画質が劣化しますが、光学ズームとの組合せで最大12倍（L3は6倍）までの拡大ができます。

使いかたは、“”テレボタンを押して光学ズーム拡大が最大になるまでズームしたら一旦ボタンから指を離し、再び押すと電子ズームが始まります。

● マクロモード[ ]のときは、光学ズームはできません。電子ズームのみです。

ファインダーを使った撮影で節電

撮影時の電池の消費を抑えたいときは、液晶モニターを消してファインダーを使った撮影をおすすめします。



DISP. ディスプレイボタンを2回押すと、液晶モニターが消えます。

カメラぶれや視野率、パララックスに注意して撮影してください。

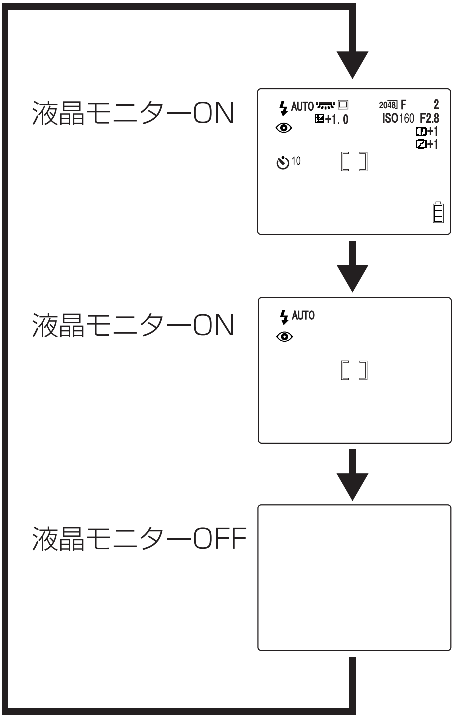
カメラぶれ→56ページ、パララックス→56ページ、視野率は114ページの主な仕様をご覧ください。

ディスプレイボタンの使い方

モードとモードで機能を設定すると、初期設定以外のアイコンは全て液晶モニターに表示されています。これは設定した内容を確認するときは便利ですが、撮影のときは使いづらいものです。

このような場合にDISP.ディスプレイボタンを使うとアイコンの表示を必要に応じてつけたり消したりできます。

モード切替ダイヤルがモードまたはモードで撮影できる状態のときに、DISP.ディスプレイボタンを押すと、次のように液晶モニターの表示状態が切り替わります。



アイコン表示あり

アイコン表示なし

ストロボモード、マクロ／遠景モード、フォーカスゲージ（MF設定時）、フォーカスフレームは表示されます。

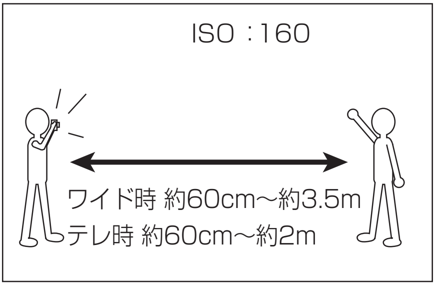
“ ”カメラモードと“ ”動画モードの 機能を使いこなす

このカメラには撮影するための機能がたくさん用意されています。
周囲の状況に合わせた撮影や作品づくりに、このカメラの機能を活用してください。

ストロボモードを使うときは?

このカメラには、周囲の明るさを判断してストロボが必要か不要かを決める自動発光の機能がついています。
しかし、ストロボは周囲が暗いとき以外にも便利な使いかたがあります。周りが明るくても発光させる、薄暗くても発光させないなど撮影の場面に合わせたストロボモードの使いかたをご説明します。

ストロボの光が届く距離



ズーミングの状態とISOの感度によって違いがあります。撮影のときは次の距離を参考にしてください。
(ISO→71ページ)

ストロボ機能の種類

AUTO 自動発光モード（初期設定）

カメラが周囲の明るさを判断してストロボの発光が必要か不要かを決めます。

赤目軽減自動発光モード

ストロボ光で人の瞳が赤く写ること、これを赤目現象（→赤目現象とは）といいます。このモードではストロボが撮影直前と撮影時の2回発光して赤目に写るのを軽減させます。

- 1回目の発光では撮影は行われずに、2回目の発光のとき撮影されます。1回目の発光後、カメラを動かしたり、人物が動かないように注意してください。

発光禁止モード

周囲の明るさに関係なくストロボを発光させないモードです。夕暮れや室内の雰囲気を画像に残したいときはこちらをお使いください。なお、このモードでは明るさによってシャッタースピードが遅くなることがありますので、撮影時には三脚などでカメラを固定してカメラぶれを防いでください。

強制発光モード

周囲の明るさに関係なくストロボを発光させるモードです。強い日差しの下や逆光下で人物撮影をするときは被写体が暗くなりがちです。このようなとき、被写体も背景もキレイに撮ることができます。

夜景ポートレート

夜景をバックに人物を撮影する場合、シャッタースピードを遅くしてストロボも発光させると夜景も人物もキレイに撮ることができます。シャッタースピードが遅くなるので撮影時には三脚などでカメラを固定してカメラぶれを防いでください。

赤目軽減強制発光モード（長時間露光のとき）

長時間露光（70ページ）を設定したときに、十字ボタンの上を押すと、このモードがお使いいただけます。

夜景をバックに人物を撮影する場合に適したモードで、シャッタースピードが遅くなり（2秒、4秒、8秒）、赤目軽減のためストロボが2回（撮影前と撮影時）発光します。

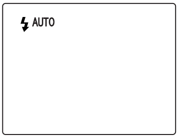
ストロボモードのつづき

赤目現象とは

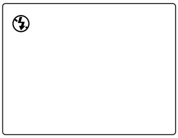
眼球に入った光の反射(眼底反射)によって起こる、瞳が赤く写る現象です。

設定のしかた–[ ]に設定する場合

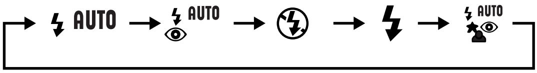
1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”に合わせます。



2　十字ボタンの上を押して液晶モニターに[ ]が表示されたら設定完了です。



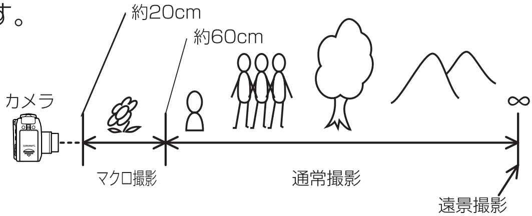
十字ボタンの上を押す毎にストロボモードのアイコンが切り替わります。



● このモードは電源をOFFにすると、初期設定の[AUTO]自動発光に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック(→92ページ)をONにしてください。

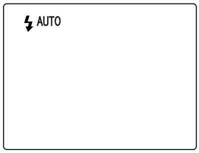
[🌷/▲] 近くのものを撮る、風景を撮る

花やコインなど小さな被写体に近づいて撮るときはマクロモードをお使いください。最短で約20cm（レンズ面から）まで近づいて撮ることができます。また、風景などを撮るときは遠景モードをお使いください。レンズが∞（無限）の設定になります。

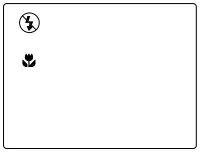


設定のしかたー[⚡🌷]に設定する場合

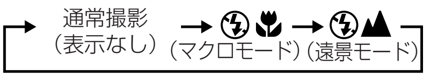
1 **電源をONにしてモード切替ダイヤルを"📷"に合わせます。**



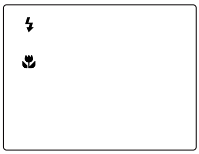
2 **十字ボタンの下を押して液晶モニターに[⚡🌷]が表示されたら設定完了です。**



十字ボタンの下を押す毎にマクロ／遠景モードのアイコンが切り替わります。



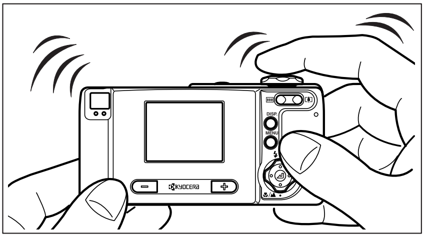
- マクロモードでは、ズーミングができません。ワイドに固定されます。（電子ズームはお使いいただけます。）
- 遠景モードでは、ストロボは発光しません。
- マクロモードでは、十字ボタンの上を押すと強制発光モードにすることができます。
- マクロモードでは液晶モニターをOFFにして撮影されていてもシャッターボタンを半押しすると、液晶モニターはONになります。（十字ボタンの上下やMENUメニューボタンを押してもONになります。）
- このモードは電源をOFFにすると、通常撮影に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック（→92ページ）をONに設定してください。



!!!こんなこともできる!!!

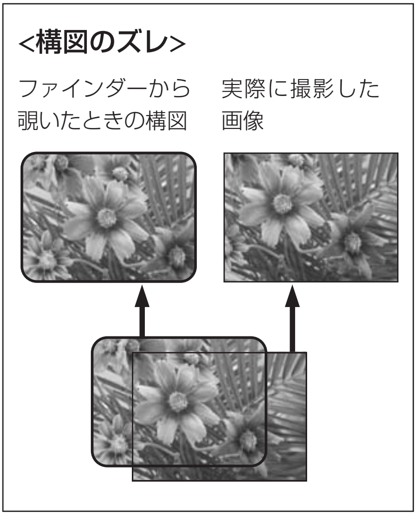
遠景モードは、空などコントラストの少ない風景を撮るときの撮影にも便利です。

カメラぶれにご注意ください



カメラぶれとは、撮影時にカメラが揺れてしまうことで、これにより画像がブレることがあります。これはシャッタースピードが遅くなるときやマクロ撮影のときに起こりやすく、特にマクロ撮影のときは被写界深度が極端に浅くなるので、シャッターボタンを押す行為で起こるカメラの小さな揺れが画像に影響してしまいます。
このような場合はカメラを三脚で固定すると効果的にカメラぶれを防ぐことができます。また、マクロ撮影の場合はこれに加えてセルフタイマーの[⏲ 2]2秒を使うとより効果的です。

パララックスってなに?



パララックス（視差）とは、ファインダーを覗いたときの構図と実際に撮った画像の構図がずれてしまうことで、特にマクロ撮影のときに注意が必要です。
ファインダーでマクロ撮影をする場合は、このパララックスを予測してカメラをずらして撮影します。（どれほどずれるかは被写体との距離によって違うので、試し撮りなどで確認してください。）
また、液晶モニターを使うと、このパララックスは起こりませんので、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。

[セルフタイマー] セルフタイマーを使った撮影は?

自分(撮影者)も一緒に写りたいときはこのモードをお使いください。シャッターボタンを押してから10秒後または2秒後にシャッターが切れます。

OFF　(初期設定)通常撮影

10　10秒のセルフタイマーが設定できます。

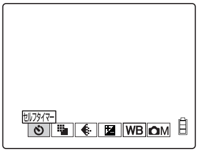
2　2秒のセルフタイマーが設定できます。*

* セルフタイマー[2]は、マクロ撮影でお使いになると、カメラぶれ防止にも効果があります。

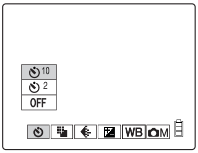
設定のしかた－[10]に設定する場合

1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを“カメラ”または“動画”に合わせます。

2　MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを表示させます。



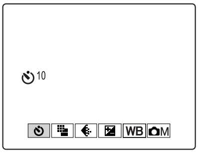
3　十字ボタンの左右を押してセルフタイマー[セルフタイマー]を選び、決定ボタンを押します。



4　十字ボタンの上下を押して[10]を選び、決定ボタンを押します。

5　[10]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。



- このモードは撮影後に設定が解除されます。続けてセルフタイマー撮影をするときは、再度設定をしてください。
- カメラは三脚などで固定してください。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを押してください。

[▦] 画素数を選ぶには?

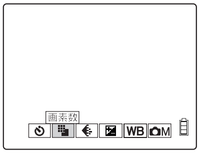
画素数とは、画像を作り上げている一つ一つの点(ドット)の数をいいます。この点の数が多いほど画像の解像度は上がりますが、画像ファイルの容量は大きくなるので撮影できる枚数は少なくなります。
撮った画像を何に使うのか、目的に合わせて選んでください。

〈静止画〉		〈動画〉
Finecam L4	Finecam L3	Finecam L4／L3
2304x1728 (初期設定)	2048x1536 (初期設定)	320x240 (初期設定)
1600x1200	1600x1200	160x120
1280x960	1280x960	
640x480	640x480	

設定のしかた－[1280] に設定する場合

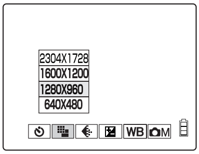
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを"📷"または"🎥"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

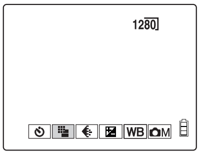


3 十字ボタンの左右を押して画素数[▦]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[1280x960]を選び、決定ボタンを押します。



5 [1280]が表示されたら、設定完了です。
MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。



● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[ ] 画像の圧縮率を選ぶには?

画質では、高圧縮の[ノーマル]と低圧縮の[ファイン]の圧縮率が選べます。圧縮率は低いほど、画質は良くなりますがファイルの容量が大きくなり、撮影できる枚数が少なくなりますので、画素数と同様、目的に合わせてお選びください。

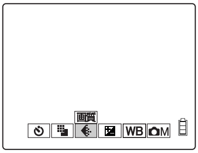
[F]	ファイン	低い圧縮率の画像が撮れます。
[N]	ノーマル (初期設定)	高い圧縮率の画像が撮れます。

●静止画のみ設定可能です。動画では選べません。

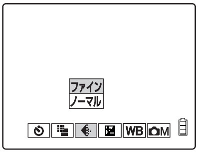
設定のしかた–[ファイン]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

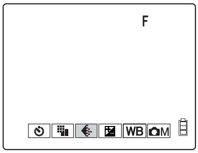


3 十字ボタンの左右を押して画質[ ]を選び、決定ボタンを押します。



4 十字ボタンの上下を押して[ファイン]を選び、決定ボタンを押します。

5 [F]が表示されたら、設定完了です。
MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。



● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

画素数と画質の組合せによる撮影枚数と容量

	画素数	画質*1	ファイル容量*2	メモリーカードに保存できる枚数*3
カメラモード（静止画）	2304x1728（L4のみ）	F	約2.0MB	約7〜10枚
		N	約1.0MB	約14〜19枚
	2048x1536（L3のみ）	F	約1.6MB	約9〜12枚
		N	約800KB	約17〜24枚
	1600x1200	F	約1.0MB	約14〜20枚
		N	約500KB	約27〜36枚
	1280x960	F	約660KB	約21〜29枚
		N	約360KB	約39〜52枚
	640x480	F	約210KB	約67〜85枚
		N	約140KB	約104〜123枚
動画モード	320x240		約8.9MB*4	約1〜2枚*4
	160x120		約9.6MB*5	約1〜2枚*5

*1　F（ファイン）、N（ノーマル）

*2　被写体によって違いがあります。あくまでも目安の容量です。

*3　16MBのメモリーカードを使った場合で、あくまでも目安の数値です。

*4　30秒記録した場合

*5　120秒記録した場合

画素数や画質を選ぶときの目安

キレイにプリントしたいときや画像の質を重視するときは、大きい画素数を選び、メールに添付するときは小さい画素数にしてファイルの容量を少なくします。

特に画質を重視する場合は［ファイン］にして、それ以外は［ノーマル］をお使いいただくとファイルの容量を抑えて記録枚数が多くなります。

[露出補正アイコン] 露出補正のしかたは?

露出補正は、明るさを調節したいときに使います。0.3EVおきに「＋」または「－」に最大2.0EVまでの補正ができます。

明るく　　　暗く

+2.0 ← ±0.0 → －2.0

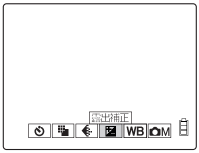
（初期設定）

C_AE	カスタム露出補正	撮影直前に露出補正値の調節が簡単にできます。詳しくは93ページをご覧ください。

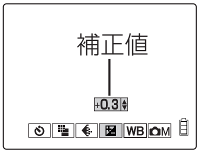
設定のしかた－[+0.3]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを"カメラ"または"動画"に合わせます。

2 メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



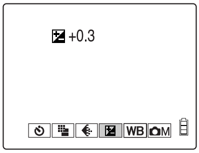
3 十字ボタンの左右を押して露出補正[露出補正アイコン]を選び、決定ボタンを押します。



4 十字ボタンの上下を押して補正値[+0.3]を選び、決定ボタンを押します。

5 [+0.3]が表示されたら、設定完了です。

メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。



- 設定した補正値は、撮影後もそのまま変わりません。(例えば+0.3に設定したら、それ以後撮影した画像は全て+0.3になります。)
- 電源をOFFにすると、初期設定(±0.0)に戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック(→92ページ)をONに設定してください。

露出補正を使う目安

このモードは被写体とその背景の明るさが極端に違うために、適正な露出が得られない場合や、意図的にアンダーやオーバーの画像を撮りたいときに使います。

※ 被写体とその背景の明るさが極端に違う場面は、例えば、ステージ上でスポットライトが当たっている場面や雪景色の中の人物撮影などがあります。

[WB] ホワイトバランスの決めかた

被写体の色は光源によって変化し、特に白は光源に影響されやすいものです。その白を白く見せるための調整をホワイトバランスといいます。

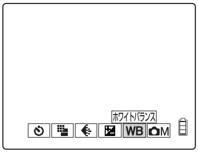
ホワイトバランスの種類

表示	種類	説明
AUTO	自動（初期設定）	周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。
	太陽 白熱電球 曇天 蛍光灯	光源を指定できるので、被写体などの色に影響されることなく撮影ができます。
PS	プリセット	[詳細設定]で設定したホワイトバランスを使います。あらかじめの設定が必要です。→66ページ
C_WB	カスタムホワイトバランス	撮影直前にホワイトバランスの調節が簡単にできます。詳しくは96ページをご覧ください。

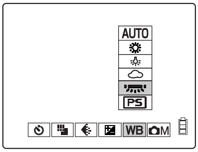
設定のしかた－[ ]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”または“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



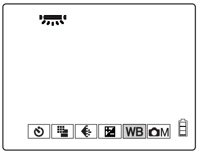
3 十字ボタンの左右を押して[WB]ホワイトバランスを選び、決定ボタンを押します。



4 十字ボタンの上下を押して[ ]を選び、決定ボタンを押します。

5 [ ]が表示されたら、設定完了です。

MENU メニューボタンを押してメニューアイコンを消すと、撮影し易くなります。



● このモードは電源をOFFにすると、初期設定のAUTOに戻ります。設定を保持させたい場合は、モードロック（→92ページ）をONに設定してください。

[M] / [M] [カラーモード]−カラー、白黒、セピアが選べる

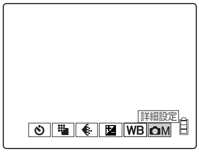
セピア調やモノクロのフィルムで撮影した写真と同じような色合いが選べます。

［表示なし］	カラー（初期設定）
［B/W］	白黒
［SEPIA］	セピア

設定のしかた−［セピア］に設定する場合

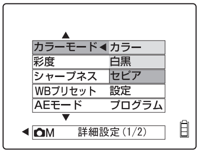
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”または“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押して［M］または［M］を選び、決定ボタンを押します。

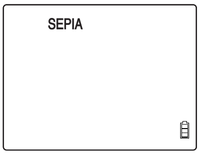
4 十字ボタンの上下を押して［カラーモード］を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して［セピア］を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら設定完了です。

液晶モニターに［SEPIA］が表示されます。



● このモードは電源をOFFにすると、初期設定のカラーに戻ります。

[M] [彩度] –鮮やかさを変える

[彩度]では、色の鮮やかさを強くした画像や抑えた画像を撮ることができます。

[+1]	＋	鮮やかさを強く
[表示なし]	標準(初期設定)	▼
[−1]	−	鮮やかさを抑える(ぼんやり)

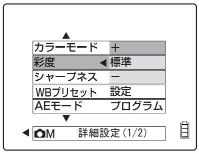
設定のしかた– [+] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替ダイヤルを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンを使って[M]を選び、 決定ボタンを押します。

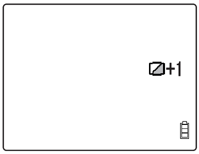
4 十字ボタンの上下を押して[彩度]を選び、 十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[+]を選び、 決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[+1]が表示されます。



● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M] [シャープネス] ー輪郭をくっきりさせる

被写体の輪郭を強調したり、柔らかくした画像を撮ることができます。

[+3]	+3	輪郭強調を強く
[+2]	+2	
[+1]	+1	
[表示なし]	標準（初期設定）	
[−1]	−1	輪郭強調を抑える

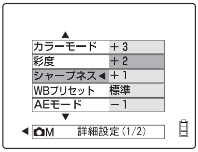
設定のしかた– [+2] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンを使って[M]を選び、決定ボタンを押します。

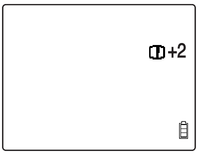
4 十字ボタンの上下を押して[シャープネス]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[＋2]を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[+2]が表示されます。



● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M] / [M] [WBプリセット] ー白を自分で決める

光源が複数ある場合や白を厳密に設定したいときは、このモードをお使いください。

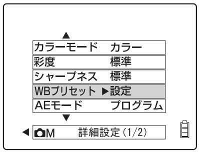
設定のしかた

あらかじめ、白い紙など白の基準となる被写体を用意しておきます。

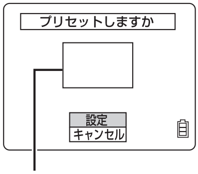
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“”または“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]または[M]を選び、決定ボタンを押します。

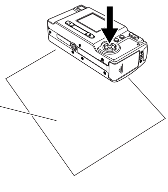


4 十字ボタンの上下を押して[WBプリセット]を選び、十字ボタンの右を押します。



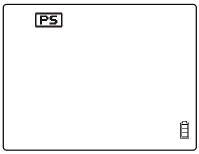
この枠いっぱいに被写体を合わせる

5 あらかじめ用意した白の被写体を画面の枠いっぱいに合わせて[設定]を選び、決定ボタンを押します。


紙などの白い被写体

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[PS]が表示されます。



- このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。
- このモードの設定は、カメラモード、動画モードのそれぞれで行ってください。

[M] [AEモード] ー露出の合わせかたを選ぶ

このモードは、カメラが自動で絞り値とシャッタースピードを決める[プログラム]と絞り値を固定してシャッタースピードはカメラにお任せの[F2.8]、[F7.5]があります。絞り値が大きいほど、被写体の手前と後側の鮮明に写る範囲が広くなります。

[表示なし]	プログラム（初期設定）	被写体に合わせてカメラがシャッタースピードと絞り値を決めます。
[F2.8]	F2.8	被写体前後の鮮明に写る範囲が狭くなり、被写体を際立たせます。
[F7.5]	F7.5	被写体前後の鮮明に写る範囲が広くなり、被写体も背景・前景も鮮明に写ります。 ● ただし、ストロボ撮影時は、ストロボの光の届く距離が短くなります。

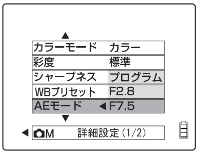
設定のしかた－[F7.5]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替 ダイヤルを“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

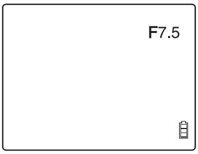
4 十字ボタンの上下を押して[AEモード]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[F7.5]を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

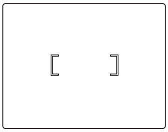
液晶モニターに[F7.5]が表示されます。



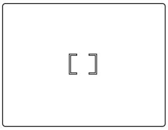
● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M] / [M] [フォーカス] –ピントの合わせかたを選ぶ

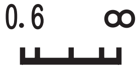
ピントの合わせかたが選べるモードです。
ピントを自動で合わせる[ワイドAF*]、[スポットAF*]と撮影距離を自分で決めるマニュアルフォーカス[MF]があります。
* AF:オートフォーカス



ワイドAF　幅が広めのフォーカスフレームです。ピントを合わせる範囲が横に広くなりますので、2人並んだ人物の撮影などに適しています。



スポットAF（初期設定）　通常のフォーカスフレームです。



MF　ご自分で撮影距離を決めてピントを合わせます。撮影距離:0.6m～∞

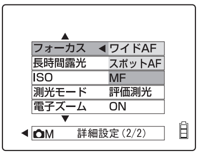
設定のしかた– [MF] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”または“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させせます。

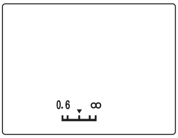
3 十字ボタンの左右を押して[M]または[M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[フォーカス]を選び、十字ボタンの右を押します。



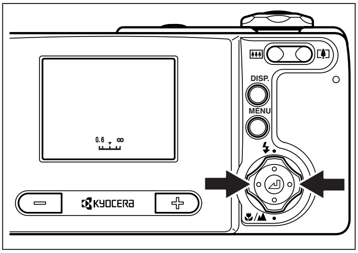
5 十字ボタンの上下を押して[MF]を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU ◯メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。



液晶モニターにフォーカスゲージが表示されます。

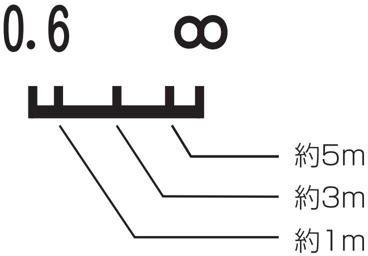
撮影距離の決めかた



十字ボタンの左右を押して距離を合わせます。

● [MF]のピント合わせはファインダーでは確認できません。液晶モニターをお使いください。

撮影距離の目安



● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M] [長時間露光] –シャッタースピードを遅くする

星空や暗がりでの小さな光(ろうそくなど)を撮影するときはシャッタースピードを遅くします。シャッタースピードは、シャッターが開いている時間の長さで、この時間が長い(遅い)ほど被写体を写し込む時間が長くなります。

[LT8S]	8秒	2秒、4秒、8秒のシャッタースピードが設定できます。
[LT4S]	4秒	
[LT2S]	2秒	
[表示なし]	OFF(初期設定)	通常の撮影(1秒～1/2000秒以下)ができます。

● 被写体によって設定する時間は異なりますので、試し撮りなどで ご確認ください。

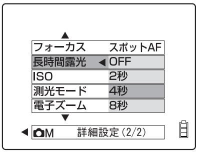
設定のしかた–[LT4S]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“”に合わせます。

2 メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させせます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

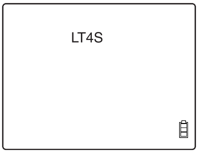
4 十字ボタンの上下を押して[長時間露光]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[4秒]を選び、決定ボタンを押します。

● ストロボモードはになりますが十字ボタンの上を押すと 赤目軽減強制発光モード(53ページ)に切り替えることができます。

6 メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。



液晶モニターに[LT4S]が表示されます。

● シャッタースピードを長く設定した場合、画像にノイズが含まれることがあります。

● このモードは電源をOFFにすると、長時間露光は解除され、通常の撮影(初期設定)に戻ります。

● カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

● このモードで[LT4S]4秒、[LT8S]8秒に設定するとき、ISO感度(71ページ)との組み合わせにより設定できない場合があります。詳しくは113ページをご覧ください。

[M] [ISO] –ISO感度を変えて撮影する

[ISO]は、フィルムのISO感度に相当する光に対する敏感さを表しています。このモードでは[AUTO]、[80]、[160]、[320]があり、数字が増えるほど画像の質は荒くなりますが、光に対する感度が高くなり、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。また、ストロボ光の届く距離も通常より少し長くなります。

[ISO320]	320	固定のISO感度を設定できます。
[ISO160]	160	
[ISO80]	80	
[表示なし]	AUTO（初期設定）	周囲の状況に合わせたISO感度をカメラが設定します。

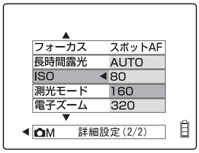
設定のしかた–[ISO160]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

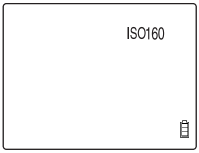
4 十字ボタンの上下を押して[ISO]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[160]を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

液晶モニターに[ISO160]が表示されます。



- ISO感度を上げる(320まで上げる)と、画像にノイズが含まれることがあります。
- このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。
- このモードで[ISO160]、[ISO320]に設定するとき、長時間露光(70ページ)との組み合わせにより設定できない場合があります。詳しくは113ページをご覧ください。

[M] [測光モード] ー露出を合わせる範囲を選ぶ

露出を合わせる範囲が選べるモードで、評価測光、中央重点、スポットの3種類があります。被写体により、使い分けてください。

[表示なし]	評価測光（初期設定）	画面全体を224分割して光の量を測り、その被写体に最適な露出値を決める測光方式です。
□	中央重点	画面のほぼ中央の範囲（スポットより大きい）で、特に中央部に重点を置いて測光する方式です。
[・]	スポット	画面の中心部で測光する方式です。

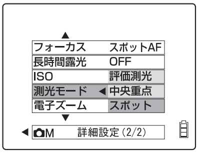
設定のしかた－[スポット]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“ ”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

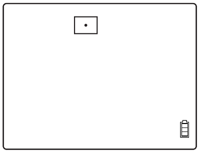
3 十字ボタンの左右を押して[M]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して[測光モード]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[スポット]を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。



液晶モニターに[・]が表示されます。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

[M]［電子ズーム］−電子ズームのONまたはOFFを選ぶ

構図を決めるとき、テレボタンで最大に拡大した後、テレボタンを押し直すと電子ズームが始まります（→50ページ）。この電子ズームを使用禁止にするときは、ここで［OFF］に設定します。

ON（初期設定）　電子ズームが使えます。
OFF　電子ズームは使用禁止です。
※アイコンの表示はどちらもありません。

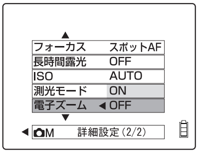
設定のしかた−［OFF］に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

3 十字ボタンの左右を押して［M］を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上下を押して［電子ズーム］を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して［OFF］を選び、決定ボタンを押します。

6 MENU メニューボタンを押して、メニューを消したら、設定完了です。

● このモードは電源をOFFにしても設定を保持していますので、撮影シーンや被写体により設定を元に戻すなどの操作が必要です。

"▶"再生モードの機能と使いかた

撮った画像を確認できるのがこの再生モードです。
この他にも90°の回転をさせたりする機能があります。

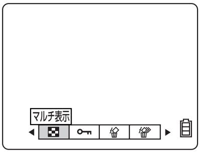
[マルチ表示] 画像を一覧再生する

マルチ再生では、液晶モニターに6枚の小さい画像(サムネイル)を表示できます。

マルチ表示のしかた

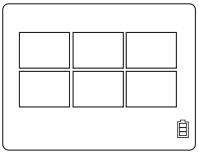
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

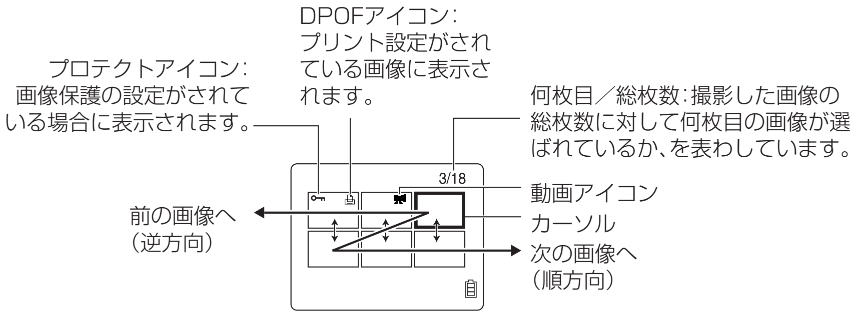


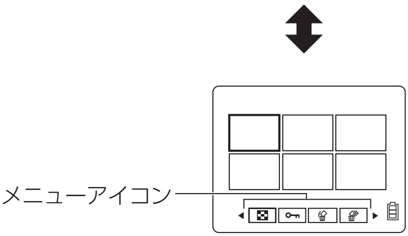
3 十字ボタンの左右を押してマルチ表示[■]を選び、決定ボタンを押します。

マルチ表示の画面に変わります。



マルチ表示時の画面と使いかた





・十字ボタンの左を押すと逆方向、右を押すと順方向に動き、上下を押すと上段下段の移動ができます。

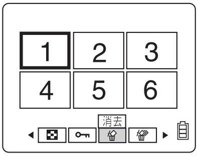
・＋－ボタンを押すと、ページを切り替えることが出来ます。

＋ボタン：順方向
－ボタン：逆方向

・MENU メニューボタンを押すとメニューアイコンが表示されます。

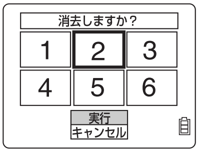
マルチ表示の画面で消去する場合

1　メニューボタンを押してメニューアイコンを表示させます。



2　十字ボタンの左右を押して消去[]を選び、決定ボタンを押します。

3　十字ボタンの左右を押して消去したい画像にカーソルを合わせます。



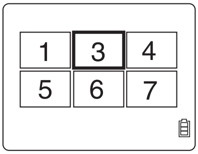
4　十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押します。

画像が消去されます。

● 続けて作業をするときは、3と4の操作を繰り返します。

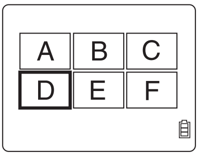
5　作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

マルチ表示の画面に戻ります。



通常の再生（シングル表示）に戻す

1　十字ボタンを使って、通常の再生に戻したい画像にカーソルを合わせます。



2　決定ボタンを押すと、通常の再生に変わります。



[プロテクト] 画像を消さないように保護する

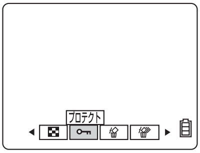
大切な画像を間違えて消さないように保護(プロテクト)することができます。

● SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
　ライトプロテクト→16ページ

プロテクトのしかた

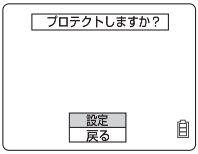
1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを"▶"に合わせます。

2　MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3　十字ボタンの左右を押してプロテクト[O-ת]を選び、決定ボタンを押します。

4　十字ボタンの左右を押してプロテクトしたい画像を選びます。



5　十字ボタンの上を押して[設定]を選び、決定ボタンを押すと、プロテクトは完了です。

● 続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。

6　作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

● プロテクトした画像は、全消去では残りますが、フォーマットすると消去されてしまいますのでご注意ください。

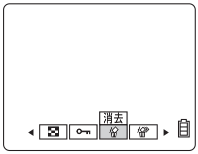
[消去]一枚の画像を消すときは

- 消去した画像は、元に戻すことはできませんので、注意して操作してください。
- プロテクトされた画像は消せません。→77ページ
- SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
  ライトプロテクト→16ページ

画像の消去のしかた

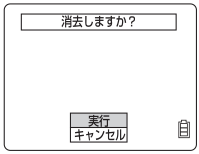
1 電源をONにしてモード切替レバーを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押して消去[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの左右を押して消去したい画像を選びます。



5 十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、消去は完了です。

●続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。

6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

[全消去] 全ての画像を消すときは

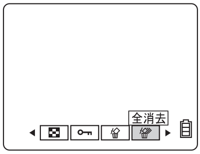
メモリーカードに記録されている画像を全て消すことができます。

- 消去した画像は、元に戻すことはできませんので、注意して操作してください。
- プロテクトされた画像は消せません。→77ページ
- SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
  ライトプロテクト→16ページ

全消去のしかた

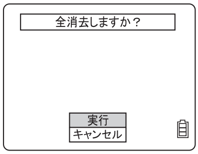
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“▶”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押して全消去[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、全消去は完了です。



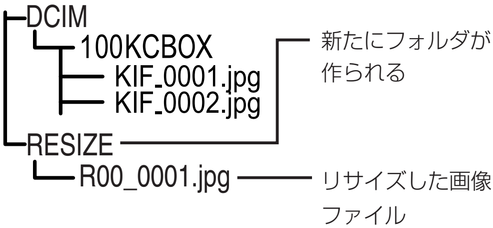
- 液晶画面に“画像がありません”と表示されます。画像が表示された場合、その画像はプロテクトされているため消去されなかったと考えられます。

5 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

[リサイズ]画素数の変更とトリミングをする

撮った画像の画素数を変更すること(リサイズ)と切り取ること(トリミング)ができます。リサイズしたりトリミングした画像は新たな画像として保存されますので、元の画像は残しておくことができます。

●リサイズした画像は次のように記録されています。

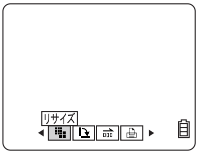


- SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
  ライトプロテクト→16ページ
- ファイルは、R00_0001jpg～R00_9999jpgまで作られ、それ以上そのカードではリサイズできません。

リサイズのしかた

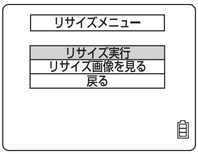
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押してリサイズ[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの上を押して[リサイズ実行]を選び、決定ボタンを押します。



5 十字ボタンの左右を押してリサイズしたい画像を選び、十字ボタンの上を押して[決定]を選び、決定ボタンを押します。



6 リサイズする範囲を決めます。

画素数だけを変えるとき



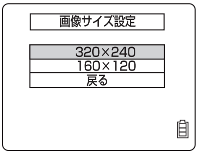
決定ボタンを押します。

範囲を拡大するときは



[ ]テレボタンを押して2倍、4倍に拡大し、十字ボタンで範囲を決めたら、決定ボタンを押します。

7 十字ボタンの上下を押して画像サイズを選び、決定ボタンを押します。



8 リサイズした新たな画像の名前が表示されますので確認したら決定ボタンを押します。



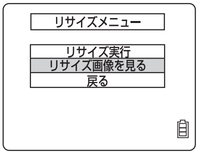
9 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

リサイズした画像の確認と消去のしかた

リサイズした画像は通常の再生では確認できません。次の手順で表示させてください。

「リサイズのしかた」の3から

4 十字ボタンの上下を押して[リサイズ画像を見る]を選び、決定ボタンを押します。



リサイズした画像が表示されます。

● 十字ボタンの左右を押して画像の順送り、逆送りができます。



5 消去する場合は十字ボタンの上下を押して[ ]を選び、決定ボタンを押します。

● 決定ボタンを押すと画像の消去は完了しますので、ご注意ください。

6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

● リサイズした画像はプロテクトできません。

[回転] 画像を回転させる

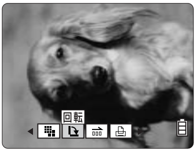
画像を右90°または左90°に回転させます。

● SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
ライトプロテクト→16ページ

回転のしかた－[90°↷]に回転させる場合

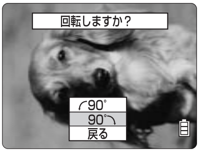
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを"▶"に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押して回転[ ]を選び、決定ボタンを押します。

4 十字ボタンの左右を押して回転させたい画像を選びます。



5 十字ボタンの上下を押して[90°↷]を選び、決定ボタンを押します。

[↶90°] 左に90°回転します。
[90°↷] 右に90°回転します。
[戻る] 作業を中止してメニューアイコンの画面に戻ります。

回転した画像が表示されます。

●続けて作業をするときは、4と5の操作を繰り返します。



6 作業の終了は、MENU メニューボタンを押します。

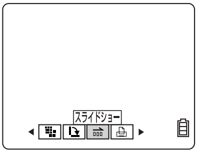
[スライドショー] 画像を自動で次々に表示させる

画像を一定間隔で撮影した順に表示させます。

設定のしかた

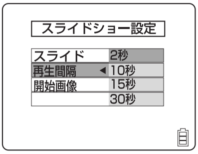
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“▶”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。



3 十字ボタンの左右を押してスライドショー[ ]を選び、決定ボタンを押します。

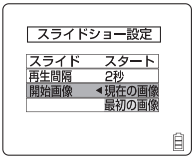
4 [再生間隔] を設定します。



① 十字ボタンの上下を押して[再生間隔]を選び、十字ボタンの右を押します。

② 十字ボタンの上下を押して再生間隔の時間を選び、決定ボタンを押します。

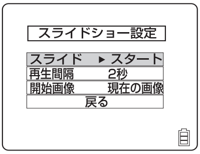
5 [開始画像] を設定します。



① 十字ボタンの上下を押して[開始画像]を選び、十字ボタンの右を押します。

② 十字ボタンの上下を押して[現在の画像]または[最初の画像]を選び、決定ボタンを押します。

6 十字ボタンの上下を押して[スライド]を選び、決定ボタンを押すと、スライドショーが始まります。



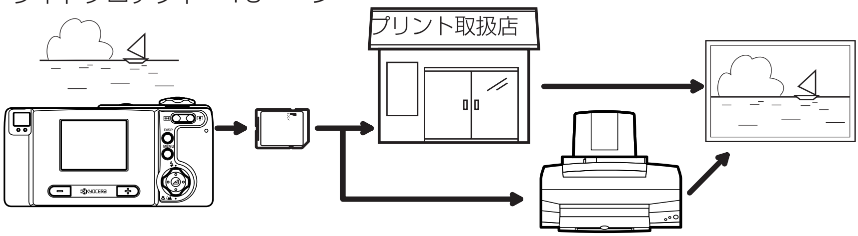
7 スライドショーを終わらせるときは、決定ボタンを押します。

● MENU メニューボタンを押しても終了できます。

[プリント設定] DPOFでプリントの設定をする

DPOFとは、デジタルカメラで撮影した画像を家庭用プリンタやプリント取扱店でプリントするための規格です。
プリントする枚数の指定や日付の印字指定などの簡単な設定ができます。ご使用のプリンタ、プリント取扱店がDPOFサービスに対応しているかご確認ください。この機能については、お使いのDPOF対応プリンタの取扱説明書も合わせてお読みになってください。

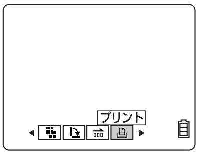
● SDメモリーカードをライトプロテクトしている場合、この操作はお使いいただけません。
ライトプロテクト→16ページ



設定のしかた

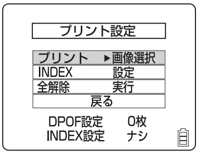
1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“▶”に合わせます。

2 MENU メニューボタンを押して、メニューアイコンを表示させます。

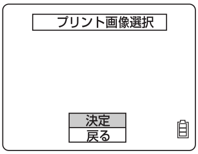


3 十字ボタンの左右を押してプリント[🖶]を選び、決定ボタンを押します。

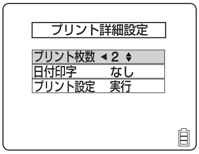
4 十字ボタンの上下を押して[プリント]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの左右を押してプリントの設定をしたい画像を選び、十字ボタンの上を押して[決定]を選び、決定ボタンを押します。



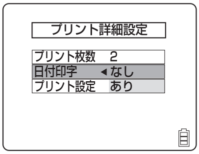
6 [プリント枚数]を設定します。



① 十字ボタンの上下を押して[プリント枚数]を選び、十字ボタンの右を押します。

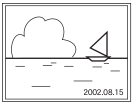
② 十字ボタンの上下を押して枚数を決め、決定ボタンを押します。

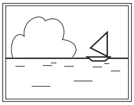
7 [日付印字]を設定します。



① 十字ボタンの上下を押して[日付印字]を選び、十字ボタンの右を押します。

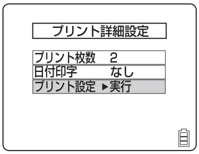
② 十字ボタンの上下を押して[あり]または[なし]を選び、決定ボタンを押します。



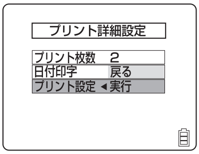


- [あり]を選ぶときにご注意ください。セットアップモードの[日付写し込み](89ページ)にて[あり]を設定し、更にこのメニューで[あり]を設定すると日付が2重にプリントされます。

8 十字ボタンの上下を押して[プリント設定]を選び、十字ボタンの右を押します。

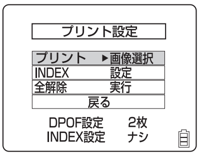


9 十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、DPOF設定は完了です。



- [戻る]は前に設定した内容のまま[プリント設定]の画面に戻ります。

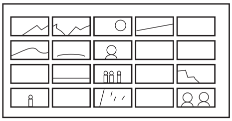
[プリント設定]の画面に戻ります。



- 他の画像のDPOF設定を続ける場合は、4〜9の操作を繰り返します。

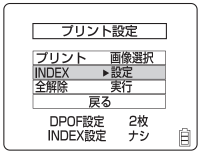
インデックスプリントの設定

メモリーカードに記録されている画像の一覧をプリントします。

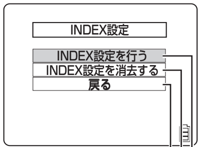


「DPOFの設定のしかた」の3から

4 十字ボタンの上下を押して[INDEX]を選び、十字ボタンの右を押します。

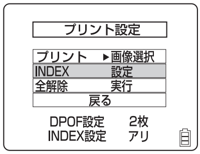


5 十字ボタンの上下を押して[INDEX設定を行う]を選び、決定ボタンを押すと、設定完了です。



作業を中止して[プリント設定]の画面に戻ります。
インデックスプリントはプリントされません。
インデックスプリントがプリントされます。

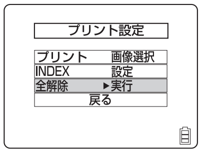
[プリント設定]の画面に戻ります。



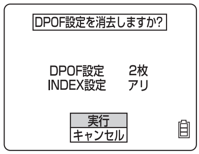
プリント設定を全て解除する

「DPOFの設定のしかた」の3から

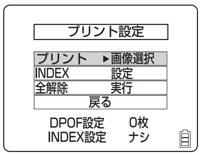
4 十字ボタンの上下を押して[全解除]を選び、十字ボタンの右を押します。



5 十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、プリント設定が解除されます。

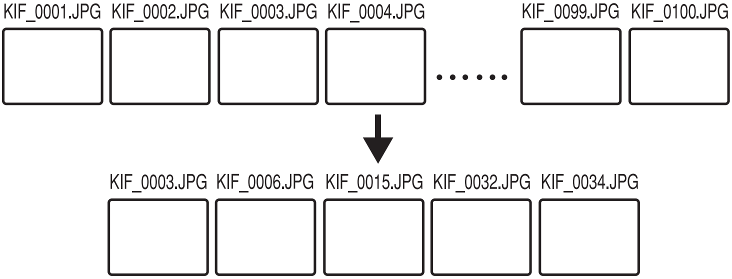


[プリント設定]の画面が表示されます。



プロテクトと全消去を使った便利な画像の消しかた

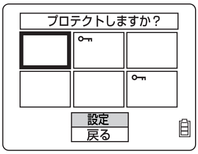
例えば、画像が100枚記録されていて、そのうちの5、6枚の画像を残しておきたいとき、[消去]で1枚づつ消していくのは大変な作業です。このように画像がたくさん記録されていてその中の数枚だけ残したいという場合は、[プロテクト]と[全消去]を使うと操作の手間が少なくて便利です。



まず、残しておきたい画像をプロテクトします。（画面はマルチ表示）

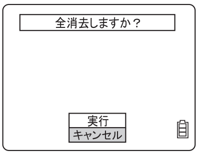
1　メニューアイコンを表示させてプロテクト[ ]を選びます。

2　十字ボタンの左右で残しておきたい画像にカーソルをあわせて[設定]を選んで 決定ボタンを押すと、画像がプロテクトされます。以後、この作業を繰り返して残しておきたい画像をプロテクトします。



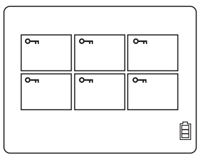
次に、全消去します。

1　メニューアイコンを表示させて全消去[ ]を選び、決定ボタンを押すと、[全消去しますか?]の画面に変わります。



2　[実行]を選んで、決定ボタンを押すと、全消去は完了です。

3　プロテクトされている画像が残ります。



“SET UP”セットアップモードの
機能と使いかた

日付の設定やメモリーカードのフォーマットなど、使う頻度は少ないけど、あると便利で大切な機能がこのモードに集められています。

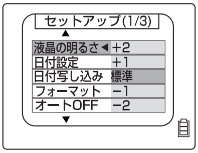
[液晶の明るさ] 液晶モニターの明るさを変える

液晶モニターの明るさを調節します。

設定のしかた

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 [液晶の明るさ]を選び、十字ボタンの右を押します。



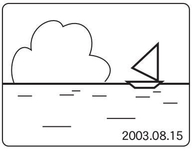
3 十字ボタンの上下を押して明るさを選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

＋を選ぶと明るく、−を選ぶと暗くなります。

[日付写し込み] 画像データに日付を書き込む設定をする

画像に日付を写し込む場合はこちらで設定します。設定後に撮影した画像から日付が写し込まれます。

[あり]　　　　　　撮影すると画像に日付が書き込まれます。
[なし](初期設定)　日付は書き込みません。

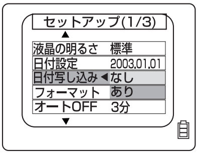


日付は画像の右下に書き込まれます。
● 一度書き込むと、消去はできません。

設定のしかた－[あり]に設定する場合

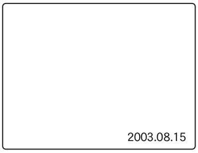
1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを"SET UP"に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[日付写し込み]を選び、十字ボタンの右を押します。



3　十字ボタンの上下を押して[あり]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

● [あり]に設定すると、撮影するときの液晶モニターに日付が常時表示されます。
● この[日付写し込み]を[あり]に設定して、[プリント設定](84ページ)の[日付設定]を[あり]に設定すると、日付が二重に印刷されますのでご注意ください。

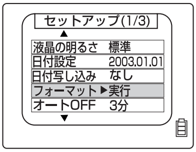


SET UP

[フォーマット] メモリーカードを初期化する

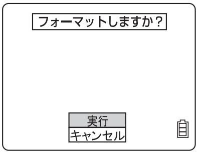
新しいメモリーカードを使う前や画像を含む全てのデータを消してしまいたいときにお使いください。

フォーマットのしかた



1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[フォーマット]を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上を押して[実行]を選び、決定ボタンを押すと、フォーマットを始めます。

4 フォーマットが完了すると[セットアップ(1/3)]の画面に戻ります。

- プロテクトした画像も消えますのでご注意ください。
- フォルダ「100KCBOX」、ファイル名「KIF_0001.jpg」から画像を記録したいときは、フォーマット後、メモリーカードを取り出して、連番リセット(102ページ)を行ってください。

[オートOFF] 電源を自動でOFFにして節電する

このカメラは、電源の切り忘れを防いで電池の消費を少なくするため、電源をONにしたままにしておくと数分後に電源が自動でOFFになる**オートOFF機能**が付いています。ここでは電源がOFFになるまでの時間が設定できます。

[しない]	6分後に休止状態になりますが、電源はOFFになりません。切り忘れにご注意ください。
[15秒]*	
[1分]	
[3分]（初期設定）	15秒後、1分後、3分後、6分後に電源がOFFになります。
[6分]	

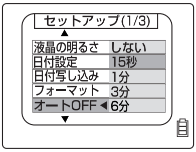
* 再生モードとセットアップモードのときは、1分後にオートOFFされます。

SET UP

設定のしかた–[1分] に設定する場合

1 電源をONにして モード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[オートOFF]を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上下を押して[1分]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

〈“ / ” 撮影モードでお使いのときのご注意〉

“ / ” 撮影モードでお使いのとき、“オートOFF” で設定した時間（または “しない”）により、カメラは次のように作動します。

1. [オートOFF] を [15秒]、[1分]、[3分]、[6分] のいずれかに設定したとき

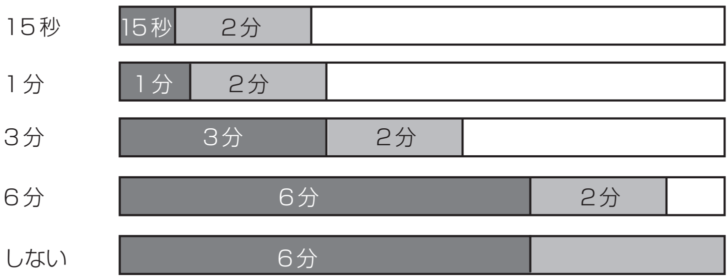
カメラに何もしないで、設定時間以上放置すると、カメラは2分間、休止の状態になります。

この間シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻りますが、この2分を越えると電源がOFFになります。

2. [オートOFF] を [しない] に設定したとき

カメラに何もしないで6分を超えて放置すると、カメラは休止の状態になります。

このとき電源はOFFにならず、休止の状態が続きます。シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。



：電源ONで撮影モードになっていて、カメラに何もしないで放置している状態

：休止の状態。カメラは、レンズが出た状態で止まっているが、シャッターボタンの半押しや他のボタンを押すことで撮影できる状態に戻る。

：電源OFFの状態。

SET UP

[モードロック] 設定した機能を残しておく

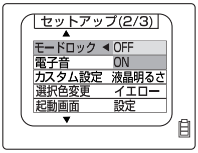
“📷”モード、“🎥”モード、“SET UP”モードで設定した内容を電源をOFFにしたときも残しておくことをモードロックといいます。(110ページ参照)

[ON]	電源をOFFにしても設定した内容を残しておきます。
[OFF](初期設定)	電源をOFFにすると初期設定に戻ります。

設定のしかた－[ON]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[モードロック]を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上下を押して[ON]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

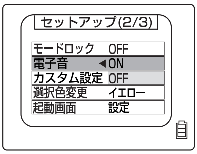
[電子音] 合焦音とシャッター音をONまたはOFFにする

[ON]	電子音をONにします。
[OFF]	電子音をOFFにします。

設定のしかた－[OFF]に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[電子音]を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上下を押して[OFF]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

SET UP

[カスタム設定]＋／ーボタンに機能を設定する

[液晶の明るさ]、[露出補正]、[ホワイトバランス]のいずれかの機能を＋／ーボタンに設定することができます。
“カメラ”カメラモードや“動画”動画モードのときにこれらのボタンを押すと、撮影直前に設定した機能の調節ができます。

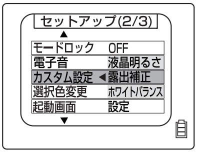
[液晶の明るさ]（初期設定）	9段階の明るさ調節ができます。
[露出補正]	−2.0〜＋2.0までの露出補正ができます。
[ホワイトバランス]	ホワイトバランスの種類（**AUTO**、晴天、電球、曇天、蛍光灯、PS）が選べます。

設定のしかた−[露出補正]を設定した場合

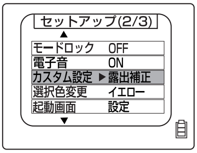
● [液晶の明るさ]、[ホワイトバランス]を設定する場合も、この手順を参照してください。

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SETUP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して[カスタム設定]を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上下を押して[露出補正]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。



4 以後、＋／ーボタンの操作のしかたについては、次のページをご覧ください。

[液晶の明るさ]　94ページ
[露出補正]　95ページ
[ホワイトバランス]　96ページ

SET UP

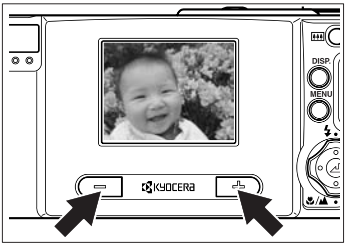
[液晶モニターの明るさ]を設定した場合の操作

カメラモード、動画モードのときにお使いいただけます。

操作のしかた

あらかじめ、電源をONにして"SET UP"モードの[カスタム設定]を「液晶明るさ」に設定します。

1 モード切替ダイヤルを"📷"または"🎥"に合わせます。



2 ＋または－ボタンを押して、液晶の明るさを設定します。

明るくするときは＋ボタンを押します。

暗くするときは－ボタンを押します。

● 次の操作をした場合は、＋／－ボタンで設定した液晶の明るさが解除されます。液晶の明るさを固定するときは、"SET UP"モードの[液晶の明るさ](88ページ)で設定してください。
- ・メニューボタンを押したとき。
- ・モード切替ダイヤルを回して、他のモードに切り替えたとき。
- ・電源をOFFにしたとき。

[露出補正]を設定した場合の操作

カメラ、動画モードのときにお使いいただけます。
＋または－ボタンを押すごとに、－2.0から＋2.0の範囲で0.3 (EV) おきの補正値が設定できます。

操作のしかた

あらかじめ、電源をONにして“SET UP”モードの[カスタム設定]を「露出補正」に設定します。

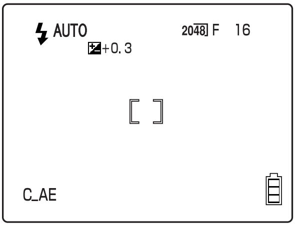
1 モード切替ダイヤルを“ ”または“ ”に合わせます。

2 ＋または－ボタンを押して露出補正を設定します。

＋ボタンを押す毎に、＋0.3 (EV) おきに＋2.0まで明るくできます。

－ボタンを押す毎に、－0.3 (EV) おきに－2.0まで暗くできます。

● 画面に[C_AE]と表示されます。



※ ＋0.3に設定した場合の表示例

● 次の操作をした場合は、＋／－ボタンで設定した露出補正の値が解除され、カメラモードまたは動画モードのメニューで設定されている値に戻ります。
露出補正の値を固定するとき(電源をONにしている間)は、カメラモードまたは動画モードの[露出補正](61ページ)で設定してください。
・ メニューボタンを押したとき。
・ モード切替ダイヤルを回して、他のモードに切り替えたとき。
・ 電源をOFFにしたとき。

[ホワイトバランス]を設定した場合の操作

カメラ、動画モードのときにお使いいただけます。
+または−ボタンを押すごとに光源に合わせたホワイトバランスが選択できます。

AUTO	自動（初期設定）	周囲の状況に合わせて自動でホワイトバランスを設定します。
☀	太陽	光源を指定できるので、被写体などの色に影響されることなく撮影ができます。
	白熱電球	
☁	曇天	
	蛍光灯	
PS	プリセット	[詳細設定]で設定したホワイトバランスを使います。あらかじめの設定が必要です。→66ページ

操作のしかた

あらかじめ、電源をONにして"SET UP"モードの[カスタム設定]を「ホワイトバランス」に設定します。

1 モード切替ダイヤルを"📷"または"🎥"に合わせます。

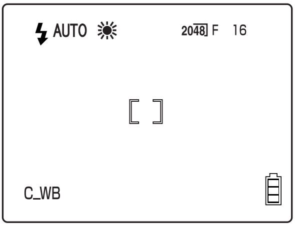
2 +または−ボタンを押してホワイトバランスの種類を選びます。

→ +ボタンを押した場合
← −ボタンを押した場合

AUTO ⇄ ☀ ⇄ 白熱電球 ⇄ ☁ ⇄ 蛍光灯 ⇄ PS

● 画面に[C_WB]と表示されます。

SET UP



※ [☀]太陽光に設定した場合の表示例

● 次の操作をした場合は、+/−ボタンで設定したホワイトバランスの設定が解除され、カメラモードまたは動画モードのメニューで設定されている値に戻ります。ホワイトバランスの値を固定するとき(電源をONにしている間)は、カメラモードまたは動画モードの[ホワイトバランス](62ページ)で設定してください。
・メニューボタンを押したとき。
・モード切替ダイヤルを回して、他のモードに切り替えたとき。
・電源をOFFにしたとき。

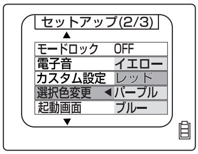
[選択色変更] メニューの色を選ぶ

イエロー(初期設定)
レッド
パープル
ブルー

設定のしかた− [レッド] に設定する場合

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2 十字ボタンの上下を押して [選択色変更] を選び、十字ボタンの右を押します。



3 十字ボタンの上下を押して[レッド]を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。

SET UP

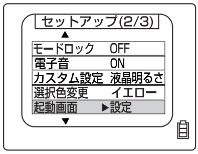
[起動画面] 起動画面を選ぶ

次の3種類の画面が選べます。

京セラロゴの画面	（初期設定）
ユーザー設定画面	メモリーカードに保存されている画像から1枚を選んで設定できます。
OFF画面	起動時の表示はありません

設定のしかた

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。



2 十字ボタンの上下を押して[起動画面]を選び、十字ボタンの右を押します。

3 十字ボタンの左右を押してご希望の画面を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。



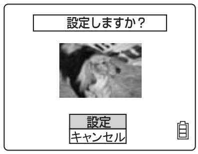
画像を起動画面に設定する

1 「設定のしかた」の3で中央の画面を選び、十字ボタンの下を押します。

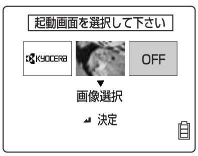
2 十字ボタンの左右を押して画像を選び、決定ボタンを押します。



3 十字ボタンの上下を押して[設定]を選び、決定ボタンを押します。



4 十字ボタンの左右を押して中央の画像を選び、決定ボタンを押したら、設定完了です。



● 設定した画像はカメラ内のメモリーに保存されますので、メモリーカードを変えたり、画像を消去しても画面が変わることはありません。

[RECレビュー] 撮影直後に画像を確認する

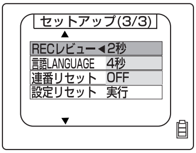
撮影直後、撮った画像を数秒間、表示させることができます。

OFF	撮影後の画像表示はありません。
2秒（初期設定）	撮影後、画像を2秒間表示します。
4秒	撮影後、画像を4秒間表示します。

設定のしかた－[OFF] に設定する場合

1　電源をONにしてモード切替レバーを“SET UP”に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[RECレビュー]を選び、十字ボタンの右を押します。



3　十字ボタンの上下を押して[OFF]を選び、決定ボタンを押すと、設定完了です。

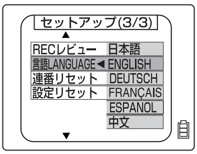
[言語LANGUAGE] メニューに表示する言語を選ぶ

日本語
ENGLISH (英語)／FRANCAIS (フランス語)／
DEUTSCH (ドイツ語)／ESPAÑOL (スペイン語)／中文（中国語、
簡体字）

設定のしかた－[ENGLISH] に設定する場合

1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[言語LANGUAGE]を選び、十字ボタンの右を押します。

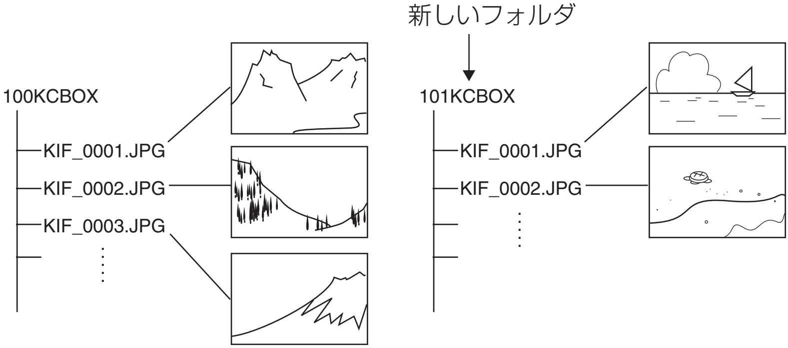


3　十字ボタンの上下を押して[ENGLISH]を選び、決定ボタンを押したら 、設定完了です。

SET UP

［連番リセット］画像データの名前を0001から始める

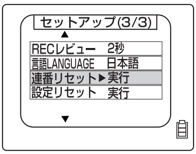
このカメラでは撮影した順に連続した番号がファイル名に付けられ、それらは「100KCBOX」というフォルダにまとめられています。
この連番リセットを実行すると、メモリーカードに新たなフォルダが作られ、画像のファイル名も新たに0001から連番が付けられます。
撮影シーン毎にフォルダを変えたいときなどにお使いください。



- フォルダ「999KCBOX」のとき、連番リセットはできません。（新しいフォルダは作られません。）
  作成できるフォルダは「100KCBOX」～「999KCBOX」です。フォルダ番号を「100KCBOX」に戻す場合は、メモリーカードを入れずに連番リセットを行い、フォーマットされたメモリーカード、もしくは何も記録されていないメモリーカードを入れてください。

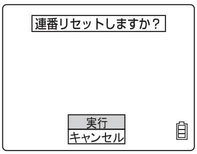
連番リセットのしかた

1 電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。



2 十字ボタンの上下を押して［連番リセット］を選び、十字ボタンの右を押します。

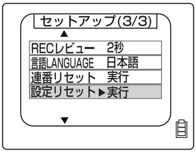
3 十字ボタンの上を押して［実行］を選び、決定ボタンを押したら、リセットは完了です。



[設定リセット] 設定した機能を初期設定に戻す

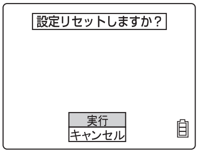
設定したモードやメニューを初期設定に戻したいときは、このモードをお使いください。

設定リセットのしかた



1　電源をONにしてモード切替ダイヤルを“SET UP”に合わせます。

2　十字ボタンの上下を押して[設定リセット]を選び、十字ボタンの右を押します。



3　十字ボタンの上下を押して[実行]を選び、決定ボタンを押したら、設定リセットは完了です。

各メニューの初期設定は、110ページをご覧ください。

付録

トラブルシューティング

故障とお考えになる前に ...

現象	原因	対策
液晶モニターが消えている。	電池切れか、電池が入っていません。	新しい電池に交換してください。
	オート OFF 機能で電源が OFF になりました。(→ 90 ページ)	再度“POWER”パワーボタンを押して ON にしてください。
	カメラに何もしないでしばらく放置すると、カメラが休止の状態になります。	シャッターボタンを半押しするか他のボタンを押すと、撮影できる状態に戻ります。“オート OFF”で設定した内容によって異なりますので、詳しくは 90 ページをご覧ください。
	液晶モニターが OFF になっています。	“DISP.”ボタンを押して液晶モニターを ON にします。
	カメラの近くに磁石等、磁気を発生するものがあります。	カメラを磁気を発生するものから遠ざけてください。それでも直らないときは、電池を入れ直してください。
撮影したのに撮影可能枚数が変わらない。	撮影した画像の容量が少なかったためです。	画素数や画質モード、被写体の状態によるものなので、問題ありません。
画像が消去できない。“”点灯	画像がプロテクトされています。	プロテクトを解除してください。(→ 77 ページ)
画像を消去したのに撮影可能枚数が増えない。	消去した画像の容量が少なかったためです。	画素数や画質モード、被写体の状態によるものなので、問題ありません。
全消去をして[画像がありません]の表示が出ているのに表示される撮影枚数が少ない。	メモリーカード内のフォルダ「***KCBOX」以外の場所に画像ファイルがある。「kif_****」以外の名称のファイルがある。	画像ファイルなど必要なデータはパソコンや他のメディアにコピーして、メモリーカードをフォーマットして下さい。

現象	原因	対策
カメラが熱くなる。	液晶モニター使用時は大量に電流が流れるため長時間使用すると熱くなります。	故障ではありませんが、しばらく休止してからお使いください。
警告 LED 遅い点滅	ストロボの充電中です。	一旦シャッターボタンから指を離してお待ちください。
警告 LED 速い点滅	カメラぶれ警告です。シャッタースピードが遅くなります。	三脚などでカメラを固定して撮影してください。
ピントが合わない。 スタンバイ LED 点滅、合焦マーク点滅	ピントが合いにくい被写体を撮影しています。（→ 48 ページ）	フォーカスロックを使って被写体のコントラストの強いところにピントを合わせてから、構図を決めて撮影してください。（→ 48 ページ）
真っ白な画像ばかり撮れてしまう。	露出オーバーの設定になっています。	長時間露光を OFF にするか、設定リセットを実行してください。
画像の回転、DPOF 設定、プロテクトリサイズができない。メッセージ“ライトプロテクト”表示	SD メモリーカードのライトプロテクトがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除するか（→ 16 ページ）、他のメモリーカードをご使用ください。
画像のノイズが多い。	ISO 感度を上げていたり、長時間露光を長い時間に設定すると、ノイズがでやすくなります。	レタッチソフトなどで、ノイズを除去するか、ライティングするなどして撮影してください。
カードをプリントショップにだすと、カメラで再生されなかった画像がプリントされてきた。	リサイズした画像やパソコンで保存した他の画像であることが考えられます。	次のいずれかの操作で、プリントしたい画像を決めてください。 ●プリント（DPOF）設定をする（リサイズした画像は設定できません。） ●パソコンで不要な画像を消す
カメラとパソコンをつないでもパソコンに［リムーバブルディスク］や［名称未設定］が表示されない。	USB ケーブルが確実にささっていません。	USB ケーブルをしっかりさしこんでください。
	ドライバがインストールされていない、または失敗しています。	ドライバの削除と対処法（42 ページ）の手順に従ってください。

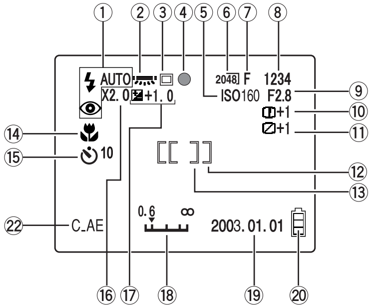
メッセージとその対策

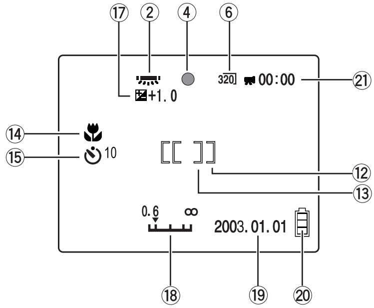
メッセージ	原因	対策
“カードが一杯です”	メモリーカードの記録容量が不足しています。	新しいメモリーカードを入れるか、不要な画像を消去してください。または、画素数や画質を変えると撮影できる場合があります。
“カードがありません”	メモリーカードが入っていません。	カメラにメモリーカードを入れてください。
“ライトプロテクト”	SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチがロック（書込禁止）されています。	SD メモリーカードのロックを解除するか（→ 16 ページ）、他のメモリーカードをご使用ください。
“カードエラーです”	他の機種でフォーマットされたメモリーカードを使っています。	カメラでメモリーカードのフォーマットをしてください。（→ 90 ページ）
	このカメラで取り扱いできないフォーマット形式のメモリーカードです。	別のメモリーカードを入れるか、フォーマットをしてください。
	カードが正しく装着されていません。	メモリーカードを装着し直してください。
“画像がありません”	メモリーカードに何も記録されていません。	● 撮影済みのメモリーカードを入れてください。 ● 撮影してください。
“印刷を中止しました”	プリンタまたはカメラから印刷が中止したときに表示されます。	[確認] または[中止] を選ぶと、[ダイレクトプリント] のメニューに戻ります。 再びプリントする場合は、プリンタやカメラの状態を確認してから実行してください。 もし、それでもプリントできない場合は、一旦、プリンタとカメラの電源を OFF し、再び ON にしてからプリントしてください。
“プリンタビジーです”	プリンタの起動中や他のプリントをしているときに、カメラから印刷を実行すると、このメッセージが表示されます。	
“プリンタエラーです”	インク切れや紙づまり、用紙がセットされていないなどプリンタにエラーが発生した場合に表示されます。	
“再生できません”	画像が壊れている場合や、パソコンで保存し直した画像の場合に表示されます。	撮影し直してください。

液晶モニターに表示されるメニューとアイコンの名前

カメラモードと動画モードの表示

<カメラモード>　　　　　　　　<動画モード>





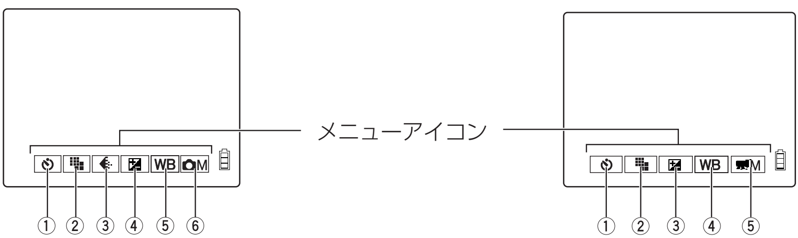
① ストロボモード →52 ページ
② ホワイトバランス／カラーモード →62 ページ／ 63 ページ
③ 測光モード →72 ページ
④ 合焦マーク（ピントが合うと緑で点灯。動画撮影時は赤色で点灯）
⑤ ISO 感度 →71 ページ
⑥ 画素数 →58 ページ
⑦ 画質 →59 ページ
⑧ 撮影可能枚数
⑨ AE モード（絞り値） →67 ページ
⑩ シャープネス →65 ページ
⑪ 彩度 →64 ページ
フォーカスフレーム →68 ページ
⑫ ワイド AF　⑬ スポット AF
⑭ マクロ／遠景モード →55 ページ
⑮ セルフタイマー →57 ページ
⑯ 電子ズーム
⑰ 露出補正 →61 ページ／長時間露光 →70 ページ
⑱ フォーカスゲージ（フォーカスで MF 設定時） →68 ページ
⑲ 日付
⑳ バッテリー残量表示
㉑ 撮影可能な残りの総秒数
㉒ カスタム設定時の表示（C＿AE：露出補正、C_WB：ホワイトバランス）→93 ページ

MENU

メニューボタンを押したときの表示

メニューアイコンが表示されます。

<カメラモード>　　　　　　　　<動画モード>



<カメラモード>

① セルフタイマー →57 ページ
② 画素数 →58 ページ
③ 画質 →59 ページ
④ 露出補正 →61 ページ
⑤ ホワイトバランス →62 ページ
⑥ 詳細設定

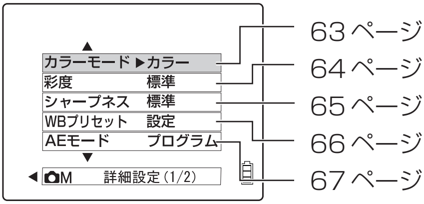
<動画モード>

① セルフタイマー →57 ページ
② 画素数 →58 ページ
③ 露出補正 →61 ページ
④ ホワイトバランス →62 ページ
⑤ 詳細設定

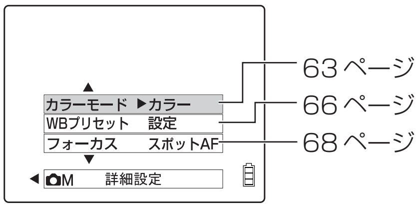
メニューアイコンの[M]、[M]詳細設定を選んだときの表示

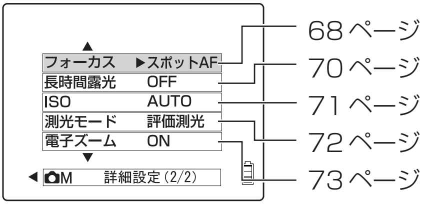
メニューが表示されます。

<カメラモード>



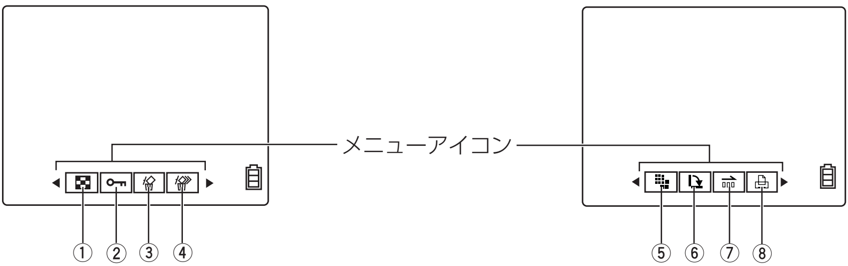
<動画モード>





再生モードの表示

MENU メニューボタンを押したときの表示（メニュー表示）

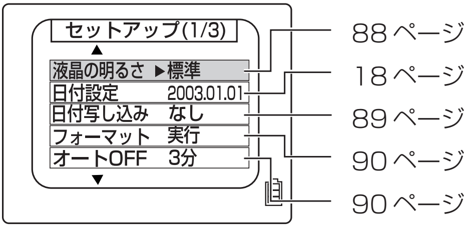


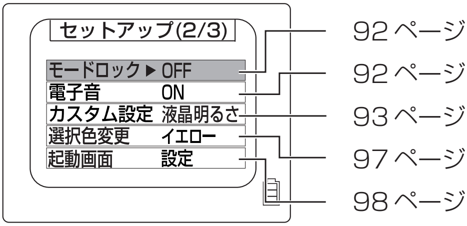
① マルチ表示 →74 ページ
② プロテクト →77 ページ
③ 消去 →78 ページ
④ 全消去 →79 ページ

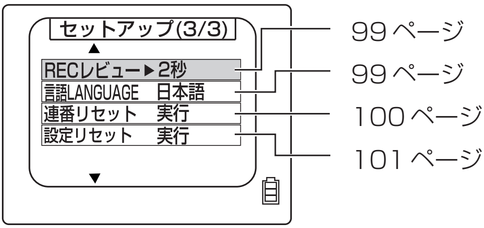
⑤ リサイズ →80 ページ
⑥ 回転 →82 ページ
⑦ スライドショー →83 ページ
⑧ プリント →84 ページ

セットアップモードの表示

メニューが表示されます。



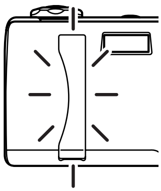




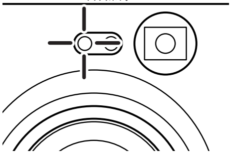
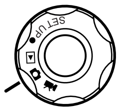
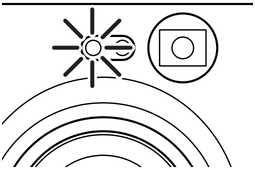
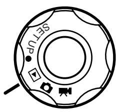
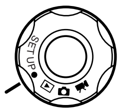
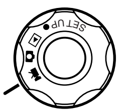
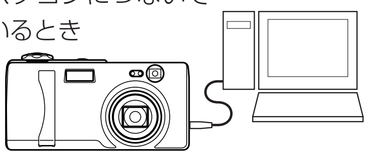
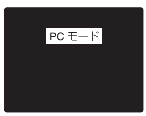
LEDの表示とカメラの状態

このカメラには5つのLEDが付いています。これらの光りかたによりカメラが今どのような状態であるかをお知らせします。

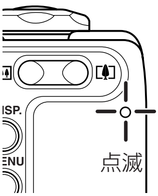
フロントイルミネーション（青／赤）点灯

	電源をON したとき、モードを切り替えたとき、パソコンにつないでいるときに点灯します。

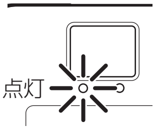
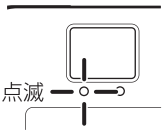
セルフタイマーLED（赤）

点滅 		セルフタイマーが作動しているとき
点灯 	 	再生モードと **SET UP**（セットアップ）モードのとき
		静止画や動画を撮影しているとき
	パソコンにつないでいるとき  	

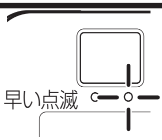
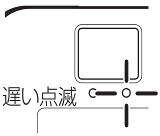
カードアクセスLED（橙）

	画像などのデータをメモリーカードに記録したり、読み込んだりしているときなどメモリーカードにアクセスしているときに点滅します。 ●点滅中は、カードカバーを開けたり、メモリーカードの取り出しは絶対に行わないでください。データが壊れる場合があります。

スタンバイLED（緑）

カメラモード 動画モード		ピントが合いましたので、撮影できます。
		ピントは合っていませんが、撮影できます。

警告LED（赤）

カメラモード		シャッタースピードが遅くなっていますので、カメラぶれに注意して撮影してください。
		ストロボを充電していますので、次の撮影は点滅が終わるまでお待ちください。

モードロックされるメニューと初期設定の一覧表

モード		メニュー	モードロック	初期設定
“📷” カメラモード “🎥” 動画モード	📷	ストロボモード	ロック可	AUTO
	📷/🎥	マクロ／遠景モード	ロック可	通常撮影
	📷/🎥	セルフタイマー	初期設定	OFF
	📷	画素数（L4）	前回設定保持	2304x1728
	📷	〃　（L3）	前回設定保持	2048x1536
	🎥	〃　（動画）	前回設定保持	320x240
	📷	画質	前回設定保持	ノーマル
	📷/🎥	露出補正	ロック可	± 0.0
	📷/🎥	ホワイトバランス	ロック可	AUTO
	📷/🎥	詳細→カラーモード	初期設定	カラー
	📷	詳細→彩度	前回設定保持	標準
	📷	詳細→シャープネス	前回設定保持	標準
	📷/🎥	詳細→ WB プリセット	前回設定保持	前回設定保持
	📷	詳細→ AE モード	前回設定保持	プログラム
	📷/🎥	詳細→フォーカス	前回設定保持	スポット AF
	📷	詳細→長時間露光	初期設定	OFF
	📷	詳細→ ISO 感度	前回設定保持	AUTO
	📷	詳細→測光モード	前回設定保持	評価測光
	📷	詳細→電子ズーム	前回設定保持	ON
“SETUP” セットアップモード		液晶の明るさ	前回設定保持	標準
		日付設定	前回設定保持	前回設定保持
		日付写し込み	前回設定保持	なし
		フォーマット	－	－
		オート OFF	前回設定保持	3 分
		モードロック	前回設定保持	OFF
		電子音	前回設定保持	ON
		カスタム設定	前回設定保持	液晶明るさ
		選択色変更	前回設定保持	イエロー
		起動画面	前回設定保持	京セラロゴ画面
		REC レビュー	前回設定保持	2 秒
		言語	前回設定保持	前回設定保持
		連番リセット	－	－
		設定リセット	－	－

ロック可：　モードロックを ON にしたときのみ電源を OFF にしても設定を保持します。
初期設定：　モードロックのON/OFFに関係なく電源をOFFにすると初期設定に戻します。
前回設定保持：モードロックの ON/OFF に関係なく電源を OFF しても設定を保持します。

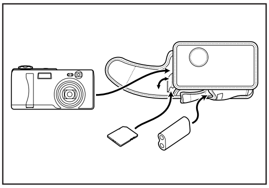
別売りアクセサリー

京セラFinecam L用ケース

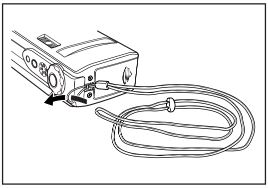
クリーナー付きストラップがセットされた専用カメラケースです。
シルバー、レッド、ブルーの３色をご用意しました。

京セラ Finecam L 用ケース（シルバー）
京セラ Finecam L 用ケース（レッド）
京セラ Finecam L 用ケース（ブルー）

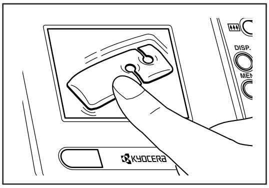
ケースの使いかた



ストラップの取り付けかた



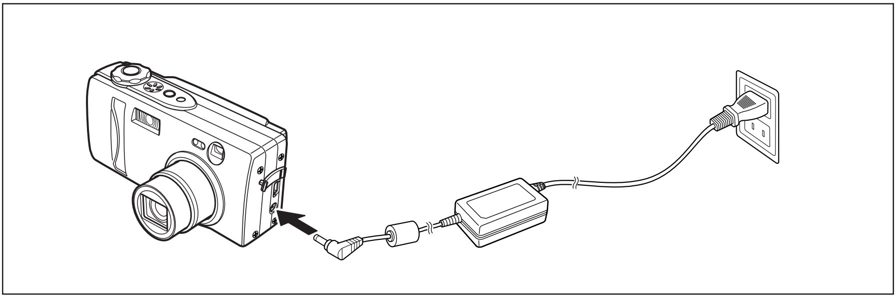
クリーナーの使いかた



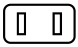
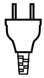
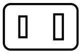
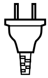
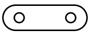
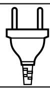
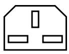
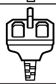
ACアダプターAC-74L

長時間の再生やパソコン接続時にお使いいただくと、電池の容量を気にせずにお使いいただけます。

接続のしかた



AC ケーブルは次の 4 種類があります。

コンセントの形状			対応電圧	お使いいただける国
タイプ	端子正面	端子側面		
A			100v-125v	日本
A			100v-125v	アメリカ、メキシコ、 ブラジルなど
C			220v-240v	ヨーロッパ各国他
BF			220v-240v	イギリス、シンガポール タイなど

● これら以外の国でお使いになる場合は、その国の電圧、コンセントの形状をご確認ください。

● 地域により、複数のタイプのコンセントが使える場合があります。（例えばイギリスは BF タイプ以外に C タイプが使える地域があります。）

〈AC アダプター・使用上のご注意〉

⚠ 警告	● プラグの抜き差しが不完全な状態で使わないでください。接触不良により発熱し、火災や感電の原因になります。 ● コードを加工したり無理な力を加えたりしないでください。コードが傷つき火災や感電の原因になります。芯線が露出するほど痛んだ場合は使用を中止し、ご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。 ● カバーをはずしたり、分解、修理、改造しないでください。感電する危険があります。 ● プラグにほこりがついた状態で使用したり、金属を近づけたりしないでください。電気が金属を伝わり、火災や感電の原因になります。ほこりがたまったときは、プラグをコンセントから抜き、ほこりを取り除いてください。 ● 煙や異臭、異音がでたり、落下、破損したときは使用を中止してください。そのまま使用すると火災の原因になります。そのような場合は、ご購入店か当社サービスステーションにご相談ください。 ● ACアダプターは家庭用電源コンセント（AC100～240V、50/60Hz）以外にはつながないでください。指定外の電圧や電源で使用すると火災や感電の原因になります。

⚠ 注意	● ACアダプターは必ず専用品をご使用ください。指定外の充電器やACアダプターを使用すると思わぬ事故や火災の原因になることがありますのでご注意ください。 ● コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足すなどは絶対にしないでください。 ● 濡れた手で ACアダプターを抜き差ししないでください。感電する恐れがあります。 ● コンセントからの抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを引っ張るとコードが傷ついたり断線したり火災や感電の原因になることがあります。 ● ACアダプターの傷、断線、プラグの接触不良などにお気づきのときは使用を中止して早めにご購入店または当社サービスステーションにご相談ください。

- ACアダプターは長時間使用すると若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 長時間使用しないときは安全のため先にカメラ側のプラグをカメラ本体から抜き、その後コンセント側のプラグを抜いてください。
- カメラに電池をセットした状態でACアダプターを使う場合、カメラの電源をOFFにしてACアダプターの抜き差しを行ってください。
- このACアダプターは、本機専用です。火災や感電の危険防止のため、指定されたデジタルカメラ以外には使用しないでください。

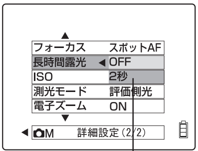
[長時間露光]と[ISO 感度]の設定にご注意ください

このカメラでは、[長時間露光]と[ISO感度]のメニュー項目の組み合わせによっては、次の表のように設定できない組み合わせがあります。

長時間露光 ＼ ISO 感度		メニュー項目			
		AUTO	80	160	320
メニュー項目	OFF	○	○	○	○
	[LT2S] 2 秒	○	○	○	○
	[LT4S] 4 秒	○	○	○	×
	[LT8S] 8 秒	○	○	×	×

○　設定可能な組み合わせ

×　設定できない組み合わせ



メニュー項目

この場合、設定できないメニュー項目は、画面に表示されずに、設定できなくなっています。
例えば、ISO 感度を 320 に設定すると長時間露光では4秒と8秒のメニューは表示されません。

主な仕様

本体

型式：　記録再生消去一体型デジタルスチルカメラ

記録媒体：　SD メモリーカード、マルチメディアカード

撮影枚数の目安と記録画素数：（SD メモリーカード 16MB 使用、同モードのみで撮影した場合）

2304 × 1728（L4 のみ）	約 7 〜 10 枚（ファイン）	約 14 〜 19 枚（ノーマル）
2048 × 1536（L3 のみ）	約 9 〜 12 枚（ファイン）	約 17 〜 24 枚（ノーマル）
1600 × 1200	約 14 〜 20 枚（ファイン）	約 27 〜 36 枚（ノーマル）
1280 × 960	約 21 〜 29 枚（ファイン）	約 39 〜 52 枚（ノーマル）
640 × 480	約 67 〜 85 枚（ファイン）	約104〜123枚（ノーマル）
動画 320 × 240	約 1 〜 2 枚（30 秒で 1 枚）	
動画 160 × 120	約 1 〜 2 枚（120 秒で 1 枚）	

フォーマット：　JPEG 準拠（Exif ver2.2）、DCF 準拠（Design rule for Camera File system）対応、DPOF 対応

（注）DCF とは、主としてデジタルカメラの画像ファイルを、関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として規定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格『Design rule for Camera File system』の略称です。

有効画素数：　L4：　403 万画素、L3：322 万画素

撮影素子：　L4　1/2.5 型正方画素インターレース読み出し方式 CCD
総画素数 423 万画素
L3　1/2.7 型正方画素インターレース読み出し方式 CCD
総画素数 334 万画素

レンズ：　f=5.8mm 〜 17.4mm（L4：35mm フィルム換算で約 35mm 〜 105mm 相当、L3：35mm フィルム換算で約 38mm 〜 115mm 相当）
3 倍ズームレンズ、F2.8 〜 4.7

撮影距離範囲：　約 64.5cm*2 〜∞
(CCD 面より)　マクロ撮影時　約 24.5cm*1 〜 64.5cm*2（ワイド端に固定）

露出制御／測光方式：CCD 画面多分割評価測光、中央重点、スポット測光

制御方式：　プログラム AE、絞り優先 AE、長時間露出

露出補正：　＋2.0EV 〜－2.0EV（1/3 ステップ、カスタム設定による＋／ーボタンへの割り付け可能）

絞り：　固定（F2.8、F7.5*）、自動　　*：明るさ換算 F 値

測光連動範囲：　LV6 〜 LV16

ホワイトバランス：自動、手動（プリセット、太陽光、白熱電球、曇天、蛍光灯、カスタム設定による＋／ーボタンへの割り付け可能）

シャッター：　CCD 電子シャッター、絞り羽根独立プログラム電子シャッター併用方式（1 秒〜 1/2000 秒、2 秒、4 秒、8 秒）

焦点調整：　ビデオフィードバック方式オートフォーカス、マニュアルフォーカス

ファインダー：　実像式ズームファインダー
視野率：80% 以上（3m）
倍率：約 0.3 倍（ワイド時）〜約 0.8 倍（テレ時）

ストロボ：　内蔵式、充電時間約 8 秒（新品電池、常温、当社測定基準による）、撮影範囲(CCD 面より)　約 64.5cm*2 〜 2.5m（ワイド時）

*1：　レンズ前面から約 20cm

*2：　レンズ前面から約 60cm

撮影モード：　ストロボモード（自動発光／赤目軽減自動発光／強制発光／発光禁止／夜景ポートレート／赤目軽減強制発光*[1]）、マクロ撮影モード、遠景撮影モード、露出補正、カラーモード（カラー／白黒／セピア）、彩度、シャープネス、ホワイトバランス（オート／太陽光／白熱電球／曇天／蛍光灯／プリセット、カスタム設定）、AEモード（プログラム／F2.8／F7.5）、フォーカス（ワイドAF／スポットAF／MF）、長時間露光（OFF／2秒／4秒／8秒）、感度（AUTO／ISO80／ISO160／ISO320）、測光モード（評価測光／中央重点／スポット）、電子ズームのON／OFF切り替え

*[1]“長時間露光”のとき設定可能

動画モード：　マクロ撮影モード、遠景撮影モード、カラーモード（カラー／白黒／セピア）、ホワイトバランス（オート／太陽光／白熱電球／曇天／蛍光灯／プリセット）、フォーカス（ワイドAF／スポットAF／MF）

再生モード：　マルチ表示、プロテクト、消去（1画像単位）、全消去（フォルダ“DCIM”内の全画像）、回転（左右90度）、スライドショー、DPOF設定、リサイズ

SET UP（セットアップ）モード：明暗調整、日付の設定、日付写し込み、フォーマットの実行、オートパワーOFFの時間選択または有無（電源OFFになるまでの時間）、モードロックの有無（撮影モードで設定した機能のロック）、電子音のON/OFF切替、カスタム設定の選択（明暗調整、露出補正、ホワイトバランスのいずれかを＋－ボタンに割り付け可能）、選択色の変更（パープル、レッド、イエロー、ブルー）、起動画面の選択と設定、RECレビューのON／OFF切り替え、言語の選択（日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語）、連番リセットの実行、設定リセットの実行

その他：　ダイレクトプリント*[2]、PCモード（接続時に表示）

*[2] セイコーエプソン株式会社提唱のUSB DIRECT-PRINTに対応。

液晶モニター：　内蔵式、1.6型7万画素TFDカラー液晶モニター、モニター画素数312×230

表示部

液晶モニター表示：電池残量、撮影モードと動画モードの設定状況（セルフタイマーモード／ストロボモード／マクロ・遠景／ホワイトバランスモード／AEモード／フォーカス／長時間露出／感度／測光モード／彩度／シャープネス）、撮影可能枚数、動画撮影可能秒数、電子ズーム（L4：×1.3／×1.6／×2.0／×3.0／×4.0、L3：×1.3／×1.6／×2.0）、日付（電源ON後3秒間のみ表示）、フォーカスフレーム、SDメモリーカードのライトプロテクト状態（カードがライトプロテクトされているときのみ表示）、記録画像（静止画／動画）、再生モード時の設定（マルチ表示／プロテクト／消去／全消去／回転／スライドショー／DPOF設定／リサイズ）、SETUP（セットアップ）モード時（液晶の明るさ／日付設定／日付写し込み／フォーマット／オートOFF／モードロック／電子音／カスタム設定／選択色変更／起動画面／RECレビュー／言語LANGUAGE／連番リセット／設定リセット）、カスタム設定時の表示

セルフタイマーLED（赤）：セルフタイマー動作、撮影完了、パソコン接続中、再生モード時、セットアップモード時、動画撮影中

カードアクセスLED（橙）：画像記録処理中、警告処理中、カードアクセス中

スタンバイLED（緑）：合焦表示

警告LED（赤）：　ストロボ充電中、カメラぶれ警告

フロントイルミネーション：起動時点灯、モード切替時、起動動作中に自動的に消灯。

入出力装置

入出力端子：　外部電源入力端子（EIAJ RC-5320 区分 1）、USB 端子

電池

電源：　リチウム電池 CR-V3　1 本、単３形ニッケル水素蓄電池２本または単３形ニッケル乾電池２本、使用可能。外部電源として専用 AC アダプターにて使用可能。

電池寿命：　リチウム電池 CR-V3：
撮影画像枚数（ストロボ 50% 使用、2304 × 1728 または 2048 × 1536 ノーマル時）
液晶モニター ON 時　約 160 画像
液晶モニター OFF 時　約 170 画像
単３形ニッケル水素蓄電池：
撮影画像枚数（ストロボ 50% 使用、2304 × 1728 または 2048 × 1536 ノーマル時）
液晶モニター ON 時　約 90 画像
液晶モニター OFF 時　約 100 画像
連続再生時間　リチウム電池 CR-V3　約220分（液晶モニター使用）
単３形ニッケル水素蓄電池　約 180 分（液晶モニター使用）
（いずれも新品電池、常温、当社測定基準による）

その他

動作温度：　0℃～ 45℃
寸法：　112.5（幅）× 54.5（高さ）× 35（奥行き）mm（突起部含まず）
質量：　約 165g（メモリーカード、電池別）
※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

索引

付録

た行

な行

は行

ま行

ら行